

事業報告書

令和6（2024）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

2024 年度 アドベンチスト福祉会事業報告

2024 年度は、「福祉」と「福祉サービス」それぞれの本質とその違いについて、各施設や部門で再確認をしながら、アドベンチスト福祉会がこれまで実践してきた法人理念に基づくサービスのあり方を整理したいと考え、「初心に立ち返る」というテーマを掲げて取り組んで参りました。

アドベンチスト福祉会が福祉事業を開始してから今日に至るまで、仮に地域の皆様をはじめとするサービスの対象となる方々から良い評価を頂けたとするなら、それは日ごとの業務への誠実な取り組みはもちろん、福祉サービスの枠を超えたところにあるニーズに対して現場の職員が誠実に取り組み、お金に換算できない適切な人間関係を築いてきたからに他なりません。

しかし、福祉に対する思いや情熱だけで福祉事業は成り立たないことは、2000 年 4 月の介護保険制度の導入を機に常に言われ続けてきたことでした。しっかりとした経営感覚と理念が法人の経営を左右するというのです。実際、措置制度から介護保険制度への移行は、福祉従事者の中に契約という概念とその現実の厳しさを突きつけ、日本が抱える高齢化問題と人口減少問題等が相まって、加速度的に社会福祉法人の経営に負の影響を与えてきたように思います。

この流れの中で、いよいよ当法人も困難な経営の現実直面しています。これは以前から早急に解決しなくてはならない課題として、評議員会から経営の改善に向けた取り組みを指示されてきました。その結果、一昨年度は僅かに黒字計上を果たしましたが、根本的な体質改善には至らず、結果的にほとんどの事業でマイナス決算の報告をせざるを得ない状況です。

この状況に関しては、昨年度内に特養を中心に経営改善委員会を立上げて収支の改善に向けて取り組み始めました。特に、経営困難に至る主な原因のひとつである人件費に含む紹介料や派遣費用の増大は経営に大きく影響することから、その他の支出と併せて賢くコントロールすることを心がけ、職員の意識改革を含めて計画的に取り組んでいるところです。

さらに、人件費や経費の内訳を明確にすることによって、各施設、事業所の最終決裁者である施設長等の責任を明確にし、事業所ごとに経営意識を高め、施設長、所長、園長と職員が一体となって黒字化を目指します。

以下、各事業の報告を致しますので、皆様のご指導を心よりお願い申し上げます。

アドベンチスト福祉会
理事長 村本 英邦

2024 年度 チャプレン事業報告

チャプレン 上前 至

2024 年度の事業計画において私共は、そのテーマに「初心に立ち返る」を掲げ、その基本方針第 1 項に「福祉の原点と与えられた使命を理解しそれに取り組む」を挙げた。その原点と使命は、私共にとっては、キリスト教社会福祉事業であり、その事業を支える聖句であるマタイ 25 章 40 節「あなたがたに良く言うておく。私の兄弟であるこれらの最も小さい者の一人にしたのは、即ち、私にしたのである」にあると言える。即ち、その聖句から横須賀キリスト教社会館・名誉館長であり初代・神奈川県立保健福祉大学長の阿部志郎氏が言うところの、「この世で最も人の手の助けを必要とする人達が幸せにならない限り、この社会全体の幸せもありえない。」に行き着くとも言えるであろう。そうした事を踏まえつつ、今年度の各事業への霊的サポート（スピリチュアル・ケア）に焦点をあてながら活動した事業報告ができることをここに感謝したい。

1. シャローム横浜・桜山、及び法人関連施設における支援

- ・毎土曜日、安息日礼拝（約 1 時間）をデイホール、チャペル等で実施。
参加者は毎回 15 名～20 名程あり、亀甲山教会牧師等にも協力を仰いだ。
- ・月～金まで毎朝、職員礼拝（15 分）を各部、各事業所の中から担当者を依頼した。それを通して各部の働きをお互いに知る機会とした。
- ・第 2 月曜日、保育園・幼児対象礼拝（10 分）。第 2 金曜日、ひかりが丘地域ケアプラザ・職員対象礼拝（15 分）。第 2、第 4 月曜日、グループホームの利用者対象「聖書の集い」（30 分）。各所で霊的ケアをサポート。
- ・経営者会における聖書講話・前祷（5 分）を実施。
- ・今年、2 月 19 日（水）に法人職員全体によびかけミッション・デいの集会を開催。
今年は亀甲山教会の平賀和弘牧師より福祉の心の勧めをいただく。又、昨年 6 月、沖縄事業所（2 ヶ所）においてミッション・デいを 1 週間行い職員との交流を持った。

2. E P A 介護福祉士候補生や、その他への支援

- ・特養における看取りを含んだ「お別れの会」を主催（10 件ほど）。
- ・インドネシアからの E P A 候補生の学習支援をサポート。また、関係者として E P A 2 期生（看護師）の一人を今回、法人理事として推薦できた事を感謝し今後の活躍を期待したい。

令和6年度事業報告 部門名	報告者：氏 名
法人本部	坂本 晋一
I	事業概況・実績報告 法人の財政面では、まず各拠点の事業活動を見ると、前年度より厳しいものになり、2期続けての黒字、収支改善には至らなかった。土地取得の件に関しても、既に確保した資金が運転資金となってしまう、今年度中の土地取得には至らなかった。介護人材確保に関しては、単身者向け住宅は確保したが、当初予定した地方からの人材確保には結びつかず、近隣団地を解約し移動させた。外国人介護人材は、2年ぶりの看護師・EPA 介護福祉士候補生の受け入れ含む4名の入職、3名の退職があり、介護・看護計15名が特養及びグループホームで就労している。 事業計画の取組結果は以下のとおり。 1 シャローム横浜周辺地域での、持続可能な事業展開 ● 既存事業の安定化 2期連続の黒字化には至らず、また現預金残高が厳しい状況が続いている。 ● シャローム横浜側の土地取得の為の計画実行 年度内に土地取得には至らなかった ● 就労支援を含む経済活動の計画 具体的な計画には至らなかった 2 主に沖縄事業を含む市外での、持続可能な事業展開 ● 既存事業の安定化 沖縄拠点各事業所の稼働率は目標達成した。また保育園拠点会計より沖縄拠点会計へ900万円の繰り入れを行い、本部会計への長期借入金返済に充てた。また、チャプレンによる法人理念に対する研修や職員のケアに取り組んだ。 ● 次年度に向け新たな事業の調査・検討・計画作成 沖縄拠点内に新たな事業所を検討しているが、既存事業の安定を優先し、次年度の課題とし取り組んでいきたい。 ● 関係のある機関訪問、協力及び連携（随時） 施設長、園長を中心に、沖縄からの高齢・保育事業の人材確保のための学校訪問等を行ったが、雇用に結びつかなかった。継続して取り組む。 3 外国人介護人材を含む、介護人材等確保と教育への取り組みへ ● 介護人材就労及び生活支援へのサポート 前年に引き続き、看護師1名、EPA 介護福祉士候補生2名（ともにインドネシア）を含む地域自治会活動含め継続的生活支援を行った。 ● 既存の繋がりの中からの関係構築と協力 ボランティア講師協力のもと、日本語能力検定（JLPT）等学習に対する積極的な取り組みを行い、JLPT N3、N2 レベル計5名が合格となった。 特定技能2名が介護福祉士国家試験を受験し1名が合格となった。 ● 次世代を担う人材確保に向けた取組 高齢事業の単身者向け住宅を確保した。基幹業務の次世代を担う人物の移動等があり、課題が残った。

事業報告書

令和 6（2024）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シ ャ ロ ー ム 横 浜

目 次

令和6年度アドベンチスト福祉会

シャローム横浜 事業報告

施設長	1
相談・企画課	2
ケアサービス	
◇特別介護棟（3階）	4
◇一般虚弱棟（4階）	6
医務室	8
栄養課（食事サービス）	1 1
認知症対応型通所介護（ひまわり）	1 4
事務局	1 6
横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業（LSA）	2 0
四季の森小学校放課後キッズクラブ	2 2

2024 年度 シャローム横浜事業報告

施設長 高原 信夫

2024 年度は、介護報酬改定や人材不足・感染対策などの様々な課題に対して、「初心に立ち返る」というテーマを掲げてご利用者の生活の在り方を考え、実践してまいりました。

その中でも福祉の原点である生活は人と人との関係性の中で成り立っていることを踏まえて、感染対策を徹底することで 5 年ぶりにフロアでの面会や地域の方を招いたシャロームデイ等のイベントを行うことができました。それにより長い間、福祉関係者以外の目が入らなかった特養の生活環境や職員の対応等について、ご家族から厳しいご意見もいただくことができましたが、ご家族と共にケアを提供するという本来の姿を取り戻すことができていることに感謝いたします。

ケアサービス課においては毎月スタッフミーティングを行い、外部・内部研修に積極的に参加するなど、サービスの質の改善に向けて取り組んだことや、新規ショートステイ受け入れ時の 1 泊 2 日の利用開始条件を外すこと、デイサービスでは OJT を徹底して行うことで、少人数で稼働できる体制づくりを目指すなど、各部署の責任者が主体的に取り組みました。

長年続いてきた生活相談員のオンコール体制廃止に向けて、それぞれの部署が話し合いを重ねて業務改善を行うことで、2025 年 4 月より救急搬送時の付き添いを 3・4 階の夜勤者が対応することになりました。

介護報酬改定に対しては、ご利用者の生活の質を高められるように、様々な加算の取得を皆で考えながら実践することができました。

その他、人材確保のために紹介会社への紹介料の増加や派遣職員を半年間利用するなど人件費の増加、物価高騰の影響、感染等による稼働率の低下などの要因で経営の悪化を招いてしまいました。この状況に対して 3 月よりシャローム横浜を中心に経営改善委員会を立ち上げて、経営状況の情報を共有して現状を明らかにし、何が経営を圧迫する要因だったのか、どのように改善していけばよいかを皆で検討し、その課題に取り組み始めました。

そのような中、栄養課が毎年行われている横浜市食品衛生協会の表彰式にて、毎年市内の 500 か所以上の飲食店舗の中から、横浜市長表彰を受賞することができました。シャローム横浜の特徴である「食」を支えている栄養課及び関係するすべての職員に感謝いたします。

今後も法人理念に基づき、「いのち」に向き合い、目の前にあるニーズに誠実に対応することを積み重ねることで経営改善を達成し、シャローム横浜の目指す福祉を実践してまいります。

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
相談企画課		原田 明子
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 コロナ感染症も5類となってから1年経過し、受け入れ体制も緩和されたことによりシャロームデイはボランティアや地域の方を招待することができた。またシャロームデイのお手伝いとして利用者ご家族にも参加して頂き、一緒に盛り上げることができた。 2 ご利用者のご家族の面会・外出・外泊の機会を増やせたことでADL維持や精神面の安定に繋げることができた。 3 本入所・ショートステイの枠を超え、目の前にある課題に対応できるように職員同士が助け合い・支え合うチーム作りができた。	
II	業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
	1 入所28名・退所26名。 2 特養では、ご利用者の事故・入院、退院・ターミナル等のカンファレンスを各部署と連携して行うことができ、情報共有して対応することができた。またオンコールの話し合いを毎週行うことで現場対応する具体的なマニュアルの作成が出来た。しかし、情報共有の仕方が上手くいかず「伝える・伝わる」ことの難しさも勉強させられた。ショートステイでは、ひまわりとの連携が図られ、情報共有することでひまわり利用者をショートステイ利用に繋げられた。今後、定期的な在宅ミーティングを開催していきたい。 3 ケアマネが中心となりワーキングチームとして動いている。今後、職員全体に理解を深めることでご利用者のQOL向上に繋げていきたい。	
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
	1 稼働率は特養95.97%、ショートステイ101.07%、合計96.45%と目標には届かなかった。理由としては、年末、年始にかけて特養ご利用者の入院、退所が多かったこと、短期入所ご利用者の本入所への移行が多く、契約終了となることで稼働率が下がったこと、また体調不良、入院でキャンセルが多かったことがあげられる。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み （改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	【業務改善】 1 毎月1回、第3水曜日に虐待防止委員会・事故防止委員会・苦情対応委員会を開催して処遇改善につなげた。 2 感染対策を徹底するよう調整することで、面会、外出の回数も増え、外泊も可能となった。 【強化】 1 見学については予約以外の飛び込みであっても、対応可能な限り丁寧に対応した。また、ご家族の希望にて看取り対応の本入所の受け入れも行った。 【新たな試み】 1 介護報酬ハンドブックを購入、各部署に配布し法令の理解促進と情報共有を行った。また何回か勉強会を設定し、ケアマネ中心に理解を深めた。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 入院ベッドの空床利用をすすめること、ショートステイ利用中の余暇活動の充実等。 2 地域の方やご家族・ご利用者・職員との触れ合いの場を企画したい。	

【表1】ショートステイ新規利用相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	4	5	7	3	2	4	3	3	5	4	3	47

【表2】特養入所相談（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	8	28	13	15	18	21	19	16	15	15	26	203

【表3】特養待機者面接（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	15	6	9	4	9	10	6	1	14	4	11	96

【表4】入退所の状況

(1) 年度中に入所又は退所した者の数（人）

R6.4.1在所有者数	入所者数	退所者数	R7.3.31在所有者数
	108	28	109

(2) 年度中に入所した者の入所時における要介護度別内訳（人）

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
0	5	3	11	9	28

(3) 年度中に入所した者の生活状況及び入所者数（人）

生活状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
在宅	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
シャロームショートステイ	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	4	1	13
認知症高齢者グループホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
介護老人保健施設	1	0	1	1	1	1	0	1	0	2	1	1	10
病院	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
有料老人ホーム	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
他法人ショートステイ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護療養型医療施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所者数	2	2	2	2	2	2	2	1	1	6	4	2	28

(4) 年度中に退所した者の理由及び退所者数（人）

退所理由	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病院で死亡者数	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
施設看取り者数	0	0	3	1	1	0	2	1	4	2	4	0	18
長期入院退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転院退所	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	4
自宅へ退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	1	0	4	3	1	1	2	1	5	4	4	0	26

【表5】在籍者の状況について（令和7年3月31日現在）

(1) 年齢構成（歳）

平均年齢	87	男性	85	女性	87.4
------	----	----	----	----	------

年齢	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計
男性	0	2	1	1	5	8	2	3	22
女性	1	2	3	6	11	28	24	12	87
計	1	4	4	7	16	36	26	15	109

(2) 在籍者の要介護度別内訳（人）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
男性	1	2	3	6	9	21
女性	2	13	13	40	20	88

(3) 入院者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
入院者数	6	7	5	6	3	2	3	3	7	4	1	0	47	3.9
延べ入院日数	72	91	103	98	71	32	31	42	76	166	8	0	790	65.8

【表6】緊急ショートステイ受入件数（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名	
ケアサービス課 特別介護棟		竹内 一平	
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）		
	1 「初心に戻る」ことを意識することで、各職員がさまざまな「気付き」を得ている。これらの小さな気付きを職員間で共有することにより、以前よりも共通認識を持って業務に取り組むことができている。 2 面会制限の緩和に伴い、ご家族のフロア訪問が増加している。面会時には積極的にコミュニケーションを図ることで、ご利用者の現状報告や今後の対応についての相談を行う事ができている。 3 「いのち」に寄り添うケアに対する理解度は深まっているものの、日々のマンネリ化により、自ら気付くことが難しい部分もあると考えられる。今後は苦情やクレームを真摯に受け止めて改善を図ることで、より質の高い介護の実践を目指していく。		
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）		
	1 新たな指導方法の構築は実現しなかった。今後は、来年度以降に向けてマニュアルの作成・更新を随時行う事で指導方法の改善と構築を進めていく。 2 感染症委員会を中心に検討を重ねることで面会制限の緩和を実施している。 3 今年度実践者研修参加0名。参加に至らなかった主な原因は人員不足によるものであると考えられる。知識向上を図る為、来年度は最低でも1名参加出来るよう日々の業務の工夫を進めていく。		
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）		
	1 年間稼働率96.45%である。これまで新規ショートステイの受け入れを一泊限定としていたが、2月より一泊縛りを撤廃し、積極的に受け入れを行う事とした。来年度も引き続き稼働率維持を目指して取り組んでいく。 2 不良評価は0には至らなかったものの、1年を通じて各職員の口腔ケアに対する意識の変化を実感している。三ツ境歯科からの助言などをフロアで周知し、より意識的に行動できるよう促すことで、これを強みとしていきたい。		
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）		
	1 外出レクリエーションの企画・実行をすることができた。しかしながら、コロナやインフル、胃腸炎などの感染症の影響により実施は2回のみにとどまった。今後も時間を調整して積極的に実施していく予定である。 2 各担当職員がケアプラン会議に参加できた。ご家族の思いや希望を汲み取りフロアで共有している。ただし、ご利用者の身辺に関する事項については、新たに増えた職員の影響もあり、自ら気づいて行動する段階に至るのは難しく、役職者から声掛けを行うケースが多かった。 3 ガウンテクニックや嘔吐処理の研修をフロアで実施し、基本的な技術は身につけているものの、実践の機会が多くない為、今後も定期的な反復研修が必要と考えられる。		

V	残された課題・その他の特記事項
	1 現在、新たな指導方法の構築は未達成の為、マニュアルの作成・更新を継続し、指導の質を向上させていきたい。 2 コロナやインフルエンザ、胃腸炎の影響で外出レクリエーションの実施回数が制限されている為、安全に配慮しつつ、より頻繁に実施できる仕組みや計画を検討。実行する必要がある。 ① ご利用者の身近に関する気づきや自発的な行動を促す教育や仕組みづくりの構築を目指していく。それに伴い、職員一人ひとりの意識向上を図る。 ② 面会制限の緩和によりご家族の面会は増加しているが、今後もより深いコミュニケーションや相談体制の充実を目指す。

表1（平均要介護度）

平均要介護度	3階
R5年度	3.69
R6年度	3.56

表2（ケアプラン家族参加率）

ケアプラン	合計	平均
3階ケアプラン数	59	4.91
3階家族出席数	30	2.50

表3（臨時カンファレンス）

臨時カンファレンス	合計	平均
3 階	134	11.2
(内利用者カンファ)	47	3.9

表4（看取りに関する計画書）

看取りケア計画	合計	平均
3階利用者	76	6.3

【 特別介護棟 3階 】

表5（日常生活状況表）3月31日現在 在籍者：51名 入院者数：0名

区 分	状 態		実 数
歩 行	自立歩行		7
	杖等歩行補助機使用	(介助歩行)	6
	車イス	(自操可)	2
	歩行不可		36
食 事	自分で可能		23
	一部介助		11
	全面介助		17
入 浴	一般浴		0
	中間浴		21
	特浴		30
排 泄 (昼)	トイレ	自分で可能	7
		介助	22
	Pトイレ	自分で可能	0
		介助	0
	オムツ		22
排 泄 (夜)	便所	自分で可能	7
		介助	0
	Pトイレ	自分で可能	5
		介助	2
	オムツ		37

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
一般虚弱課		松岡勇次
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 面会を継続しつつ、特別面会・フリー面会も状況に応じて相談企画課と協力して実施。 2 外部研修への参加実績 ・4月：介護技術の基本 ・5月22日 29日：排泄勉強会 パットの当て方の基本 ・5月、6月、7月：生産性向上に向けた取り組み ・10月：福祉機器展とセミナーに課長・主任・副主任が参加 ポジショニング・シーティングの研修。 ・11月8日：介護職が知っておきたいワンポイント医学知識と薬の基本 ・12月12日：人材育成研修（3名） ・3月：実務者研修へ1名参加 その他、来年度に実務者研修を希望している職員が2名おり、日程調整中。 3 職員が集まって意見を出し合い、業務改善を都度実施した。 オンコールの見直しに伴い、フロア業務を職員の意見を収集して細かく見直しをすることで業務改善につなげた。	
II	業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
	1 挨拶が無い・介助の際の声かけが無いとのご意見を頂いたため、該当する職員へはその都度指導し、フロア全体にも繰り返し周知した。 2 職員教育体制の構築では事業基本方針I-2に基づき、情報収集し研修へ参加することができた。 3 毎月第3水曜日にワーカー会議を開催し、意見を言いやすい環境作りに取り組み、個別で上がってきた意見についても役職者間で共有したことで、職員間のコミュニケーションを円滑にし、自発的に業務に取り組む環境を構築した。	
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
	1 入退所委員会で議題に上がったご利用者は断ることなく受け入れた。 （特養一般虚弱課 年間平均稼働率 96.12%） 2 ・身体拘束・虐待防止については、虐待検討委員会において事例紹介・虐待の芽アンケートを実施した。 ・褥瘡予防・口腔ケア（嚥下）の研修は機能訓練指導員より実施。（参加者24名） ・排泄は王子製紙の担当者が来所し研修していただいた。（2日間・参加者21名） ・感染対策では10月よりガウンテクニックの現地研修を行った。（参加者29名） ・事故防止研修については、職員教育委員会の研修以外では実施できなかったが、ヒヤリハットや事故報告書であがった対策について周知されていなかった現状があったため、意見ノートを活用し1週間の間、各申し送りの際に読み合わせをして対策を周知して同様の事故が発生しないよう工夫した。 【その他、実施した研修名】 ・生産性向上研修 1名 3日間の研修、嚥下 26名 ・人材育成研修 3名 3日間の研修 ・実務者研修 1名	

IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果） 1 ご利用者に希望を確認し、食のレクリエーションとしてカップラーメンやアイスクリームを自分で選んで食べていただくイベントを実施した。 2 国籍等関係なく、皆がリーダー業務をできるよう指導した。なお、3年目の職員でリーダー業務がなかなか進まない者もいたが、丁寧に指導して10月より独り立ちとなった。 3 10月より係・担当業務を毎月報告するよう業務改善した。今後は過去のやり方にとらわれず、必要な事を業務として実施できるよう改善する予定。 4 当フロアでは今年度はコロナ発症していないが、標準予防策の周知徹底を実施している。 5 4月のワーカー会議にて開催日時を3か月に1回とし、時間帯も夜間帯から毎月第3水曜日 15時からに変更した。それにより職員の参加率向上と夜勤明けの職員や早勤の職員、休みの職員の負担軽減を図り、残業時間の削減ができた。
V	残された課題・その他の特記事項 1 今年度は係り・担当業務を少しずつではあったが再開できた。来年度はさらに加速させ充実させていきたい。 2 各種委員会の担当者が役職者に偏っていた。順次、他の職員に振り分けて経験を積んでいきたい。 3 今年度実施した研修で得た知識を、如何にして他の職員に伝達・アウトプットしフロアで活かしていくかが今後の課題である。

表1（平均要介護度）

平均要介護度	4階
R5年度	3.69
R6年度	3.56

表2（ケアプラン家族参加率）

ケアプラン	合計	平均
4階ケアプラン数	67	5.90
4階家族出席数	20	1.70

表3（臨時カンファレンス）

臨時カンファレンス	合計	平均
4階	146	12.1
（内利用者カンファ）	38	3.2

表4（看取りに関する計画書）

看取りケア計画	合計	平均
4階利用者	106	808

【 一般虚弱棟 4階 】

表6（日常生活状況表）3月31日現在 在籍者：58名 入院者数：0名

区 分	状 態	実 数
歩 行	自立歩行	2
	杖等歩行補助機使用	（介助歩行） 3
	車イス	（自操可） 19
	歩行不可	34
食 事	自分で可能	35
	一部介助	11
	全面介助	7
	胃瘻	5
入 浴	一般浴	0
	中間浴	38
	特浴	20
排 泄（昼）	トイレ	自分で可能 13
		介助 26
	Pトイレ	自分で可能 0
		介助 0
	オムツ	19
排 泄（夜）	トイレ	自分で可能 9
		介助 6
	Pトイレ	自分で可能 0
		介助 0
	オムツ	43

令和 6 年度事業報告 部 門 名		報告者：氏 名	
医務室		中村 牧子	
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）		
	1 退所理由：施設看取り 18 名、入院死亡 4 名、転院退所 4 名、自宅へ退所 0 名 2 感染症の発症：①インフルエンザ：ご利用者 1 名、職員 延べ 10 名 ②ノロウイルス：ご利用者 0 名 職員 5 名 ③コロナウイルス：ご利用者 11 名（本入所 10 名、SSI 名）、職員 23 名 ④疥癬：ご利用者 4 名 職員 1 名 3 夜間の救急搬送 29 名 4 オンコール対応：235 件（看取り対応 0 名含む）（表 9） 5 介護職員と連携し、ご利用者の ADL 変化に対して再評価して、介護方法の見直しを行った。なお、福祉用具の入れ替え・見直しは継続中。		
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）		
	1 感染症に対し多職種との連携を図り現場、委員会での話し合いを頻回に行いケア、看護することができた。 2 ご利用者、ご家族を中心に話し合いを重ねて、必要なケア、看護を見出し提供することができた。 3 医務室内外の変化に対して各部署との連携を図りたかったが充分ではなかった。今後の課題とする。 4 夜間の救急搬送 29 名は異常の早期発見、各部署との連携、医師への早めの報告、受診と協力体制での結果だが、オンコール廃止を受け再度の見直しを行うこととする。		
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）		
	1 職員対象のガウンテクニックは目標の 2 回/年の実施には至らず 1 回/年の実施となった 2 職員の人員不足のため外部研修の参加ができなかった。 3 稼働率 100%を目標としたが、目標にはとどかず。継続を目指す。 4 褥瘡の知識を深める勉強会を介護職員に実施し、約 8 割の職員が参加できた。		
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）		
	1 医務室ミーティングを定期的に行うことにより統一した看護の提供、医務室内の業務改善へとつながった。 2 看護学生の受け入れ（2 校）実習にケアマネからの仕事内容等の説明を盛り込むことにより更に深い学びとなった。 3 介護職員と共にシーティングやポジショニングを確認して写真で記録することで、姿勢やクッションの使用方法などの理解に努め、誤嚥性肺炎の予防につなげた。		
V	残された課題・その他の特記事項		
	1 吸引、経管栄養等の資格を取得していない職員に対して積極的なアプローチを進める。 2 誤薬の防止、改善を常に考え安心、安全な配薬が出来るよう図る。 3 福祉用具やベッド柵など、ご利用者ごとに見直しを行い、環境を整える。		

表1【医師の診療】

<住診>

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	来所回数	5	4	4	4	4	4	5	5	3	4	3	4	49
	診察人数	67	33	42	40	45	46	55	64	43	70	27	38	570
精神科	来所回数	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	25
	診察人数	32	27	23	24	34	28	28	29	27	29	28	28	337
歯科	来所回数	4	4	5	3	4	4	5	5	5	2	5	5	51
	診察人数	35	37	42	27	38	38	45	45	42	17	45	45	456
皮膚科	来所回数	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	13
	診察人数	11	13	10	8	1	13	14	13	12	11	11	20	137

<嘱託医へFAX(報告・相談)人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中希望が丘診療所	2	0	0	1	0	3	3	3	9	19	14	5	59
神奈川病院	0	0	0	0	1	0	2	0	0	3	3	0	9
浅井皮膚科クリニック	0	0	0	1	0	2	1	0	4	5	4	3	20

表2.【外来受診・健康診断】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	5	8	2	1	3	5	4	5	2	1	8	8	52
眼科	3	0	1	1	2	1	2	1	0	0	3	0	14
皮膚科	4	5	6	2	5	2	3	4	1	3	13	6	54
整形外科	6	4	3	5	8	3	0	0	1	0	1	1	32
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	0	0	0	1	2	0	1	0	0	0	1	0	5
救急外来	3	4	4	5	1	4	3	3	6	6	1	0	40
脳外科	7	1	1	2	4	2	2	0	2	0	1	2	24
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
形成外科	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	6
精神科	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
歯科	0	2	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	6
耳鼻科	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
内視鏡	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
検査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
輸血	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	33	24	17	18	27	19	19	13	16	11	29	20	246

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急搬送本入所	3	4	3	5	1	4	3	3	6	5	1	0	38
救急搬送SS	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
入院者の病名	尿路感染症・腎盂腎炎 1名	肺炎 2名	胃潰瘍 1名	肺炎 1名	肺炎・尿路感染症 1名	肺炎 1名	肺炎 3名	糞便性イレウス 1名	低血糖 1名	誤嚥性肺炎 2名	心不全・腎不全・貧血・脱水 1名		入院者合計
	心不全 1名	原因不明の発熱 1名	胸水 1名	大腸癌疑い 1名				誤嚥性肺炎 1名	誤嚥性肺炎 1名	腸炎・脱水 1名			
									症候性てんかん 1名	総胆管結石・胆のう炎 1名			
入院者数合計	2	3	2	2	1	1	3	2	3	4	1	0	24

	7月11日	7月18日
健康診断	45	53

表3.【医療処置】月末時点(入院者含まず)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃ろう	4	4	4	6	5	4	4	4	4	4	5	5	53
ストマ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
在宅酸素	1	1	1	2	2	2	2	2	1	0	0	0	14
尿道留置 カテーテル	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	1	1	17
常時吸引	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	22
褥瘡(Ⅱ度 以上)	5	3	5	6	4	6	7	10	9	7	5	7	74
吸入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	13	15	19	16	18	19	22	20	17	14	16	204

(SS含まず)

表4.【歯科衛生士による口腔ケア】

口腔ケア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	4	3	4	4	2	3	3	2	2	3	1	3	34
実施人数	73	61	85	84	49	57	70	47	45	55	18	58	702

表5.【リハビリ】

〈PTによるリハビリ〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所回数	3	3	3	3	2	3	3	2	3	3	3	3	34
指導人数	13	13	13	14	8	11	10	8	12	11	12	11	136

〈機能訓練指導員によるリハビリ〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施数	49	58	68	68	63	31	70	75	58	75	60	102	777

・介護職員とともにシーティングやポジショニングを確認し、写真を撮り目で確認出来るように掲示し定着に努めた。

・食事介助の際のご利用者の姿勢に対しての勉強会を実施

・褥瘡研修実施

表6.【予防接種】

肺炎球菌予防接種

	①ニューモバックス	②プレベナー
3F	0	0
4F	0	0
合計	0	0

コロナワクチン接種

	12月10日
3F	37
4F	24
合計	61

インフルエンザ予防接種

3F	51	R6.11.19 R6.11.26
4F	52	
合計	98	

注:①市の助成あり ②助成なし自費

表7.【外部研修参加】

	日時	研修名	参加者	場所	主催
1	令和6年12月 ～ 令和7年2月	組織人基本スタンス 構築研修	松岡 天道 加藤 神宮 アムリン スルハム 山 本 荒金 木下 池原 吉 田 山中	会議室	株式会社エスティ エ ス ラーニング
2	2024年10月3日	国際福祉機器展	松岡 アムリン 山中	東京ビックサイト	一般財団法人保健福 祉広報協会

表8.【他部署への研修実施】令和3年12月4日～喀痰吸引等実地研修

	日時	講師	研修内容	対象	場所	参加人数
1	令和7年 3月	山中	褥瘡研修	3・4F ケアワ カー	フロア	37名
2	令和6年	山中	嚥下研修	3・4F ケアワ カー	フロア	
3	令和6年 11月	医務看護 師	タッピング	3・4F ケアワ カー	フロア	49名

表9【夜間オンコール】18:30～翌朝7:30

月別のオンコール件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	21	19	28	26	50	21	10	32	51	26	13	235

症状別の件数・救急搬送数

SPO2低 下 呼吸	血圧	けいれん	麻痺	嘔吐	下痢	高熱	意識レ ベル低 下	呼吸停 止 (看取り)	転倒	頭痛	腹痛	胸痛	出血
16	13	2	0	56	0	126	8	0	65	0	2	4	2
その他	救急搬送												
19	29												

(1人に複数症状ある場合あり)

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏名
栄養課		小寺 秀偉
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 今年度はご利用者にとって楽しみのある食事を目指し、料理に季節の変化を感じられる食事を提供ができた。また、HACCPを導入して3年目に入り、厨房内の衛生面、安全衛生に強化でき、横浜市より最優秀施設に選ばれる事ができた。 2 地域の高齢者が心身ともに健康で安心した生活が送れるようにコミュニケーションを取りながら、なおかつ安否確認をしつつお弁当を配ることができた。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 HACCP（国際衛生管理法）導入によって栄養課で食材の衛生面を管理する事により、食材の賞味期限、温度、産地を記録して安全な食事を提供する事ができた。 2 配食ご利用者の満足度を上げるための盛付けや切り方、料理に対し変化をつけることはできなかった。 3 配達時にコミュニケーションを取る事により、ご利用者の変化に気づいて関係者およびご家族に連絡を取り合うことができ、本人が安心して暮らせる手助けができた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 大規模の地震や災害に備え、栄養課独自の炊き出し訓練を2回実施する予定だったが、勤務状況により1回の実施となった。 2 感染症備えて栄養課での感染症対策研修を後期に1度、行った。 3 配食一日平均 134.3食で目標は達成できた。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 若葉台地域、ひかりが丘地域にて集団栄養指導を2回行うことができた。 2 お弁当の装丁を季節感のある絵柄にし、配達時間等の急な依頼にも応じる事ができた。 3 今年度、嗜好調査を実施することができなかった。意見箱では新たに4Fで1件意見を頂くことができた。来年度からは毎年継続できるように計画的に取り組んでいく。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 大規模の地震や災害に備え栄養課独自で炊き出し訓練を栄養課だけでの訓練は1回実施にとどまったので、来年度は2回行うことにする。 2 今年度のアンケートから配食の献立に「美味しいが飽きが来た」との声があり、献立の見直しが必要。	

表1【栄養ケア・マネジメント】

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
高リスク	8	9	10	11	13	13
中リスク	72	72	66	63	59	65
低リスク	24	23	27	28	32	27
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高リスク	15	20	18	17	20	16
中リスク	64	58	60	62	57	60
低リスク	24	27	27	26	28	28

表2【年間行事食予定表】

4月			10月	6(日)	ラーメン屋台
5月	5(日)	ピザ	11月	3(日)	焼き芋
6月	2(日) 16(日)	2:海鮮丼(特養) 16:バーベキュー(ケアハウス)	12月	25(水)	クリスマスディナー
7月	7(日)	夏野菜収穫祭	1月	1(水)	正月祝膳
8月	4(日)	あんみつ屋台	2月	2(日)	手作りデザート
9月	1(日) 15(日)	1:ピザ、15:敬老の日	3月	5(日)	ラーメン屋台

表3【行事食実施記録】

● イベント食

敬老祝い膳 (9月15日)	赤飯、清汁、ぶりの幽庵焼き、天ぷら(海老、南瓜、なす、ピーマン)、 炊き合わせ(里芋、椎茸、絹さや、紅葉麩、かに入り卵蒸し) 柿とほうれん草の白和え 寿饅頭
クリスマス ディナー (12月25日)	チキンパエリア、オニオンスープ、サーモンアボガドビーンズサラダ ビーフシチュー(牛肉、しめじ、人参、タマネギ、ブロッコリー)、 さつま芋とエビのガーリック炒め、肉禁(サーモンソテークリームソースかけ) サワーシェリーケーキ、ストロベリーケーキ、ワイン(ノンアルコール)
正月祝い膳 (1月1日)	雑煮(鶏肉、ほうれん草、花形人参)、海老の姿焼、伊達巻、 栗きんとん、紅白なます、黒豆、紅白かまぼこ、昆布巻、数の子、 鰯の西京焼き、鶏肉の三色巻 煮物(里芋、京人参、筍、椎茸、絹さや)

- 喫茶（月によってはミキサー食の方にも召し上がって頂けるように配慮したデザートを提供）

4 月	イチゴショートケーキ	10 月	抹茶ティラミス
5 月	オペラケーキ	11 月	レアチーズケーキ
6 月	抹茶ティラミス	12 月	キャラメルケーキ
7 月	サワーチェリーケーキ	1 月	オペラケーキ
8 月	イチゴショートケーキ	2 月	抹茶ティラミス
9 月	マロンケーキ	3 月	白桃ムースケーキ

表 4【食事サービス】

- 食事サービス実績表

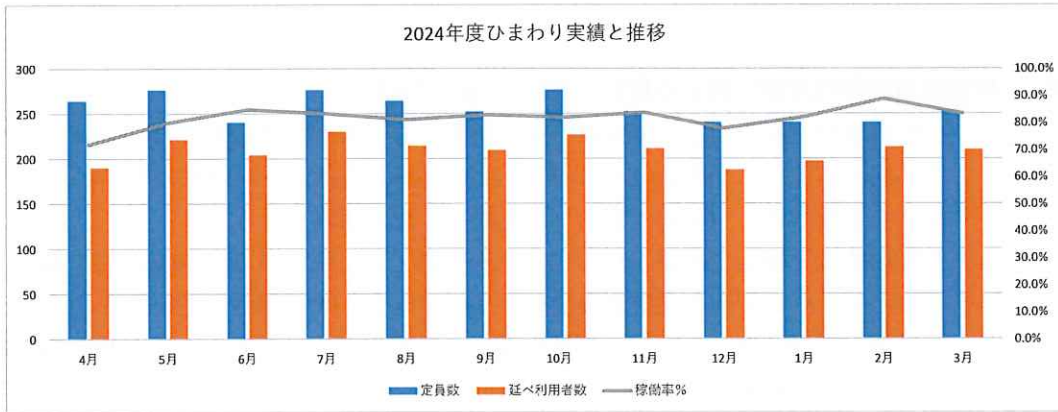
	月別実績 食数	一日平均 食数	前年度比率
4 月	2,797	127.1	106.0%
5 月	3,016	131.1	107.8%
6 月	2,571	128.6	104.1%
7 月	2,903	132.0	107.7%
8 月	2,765	125.7	106.5%
9 月	2,766	131.7	108.2%
10 月	3,073	133.6	108.0%
11 月	2,995	142.6	114.2%
12 月	3,090	147.1	118.1%
1 月	2,827	141.4	112.5%
2 月	2,685	134.3	105.5%
3 月	2884	137.3	107.0%
計	34, 372	134. 3	108. 8%

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
認知症対応型通所介護（ひまわり）		木下 順子
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 ご家庭で出来ない事をご利用者に体験してもらうことを目的に、外出時は出来る限りご利用者全員で出かけるよう配慮した。それをご家族に報告することにより、驚かれたり、感謝されることも増えて、満足感を感じていただけていると感じている。このことにより、サービスの増回につなげることができた。 2 人員体制が変わり、なかなか営業に出る事ができなかった。しかし、理念に基づきご利用者に柔軟に向き合ってきたことで、ケアマネ等からのご紹介や新規問い合わせが増えて、契約へとつなげることができた。これにより、年間を通して稼働率を大幅に上げる事ができた。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 在宅生活の継続をサポートするため、ご利用者のADL変化への気付きに努め、必要に応じてご利用回数増回をケアマネに報告・相談を迅速に行った。なお、ショートステイは徐々に利用する方が増えており、シャローム横浜全体でケアが行える体制を構築できるよう取り組んでいる。 2 下肢筋力の強化には取り組めなかったが、ドライブに行く際に車から降りて散歩をするようにして歩行の機会を増やした。 3 営業には出られなかったが、多くの問い合わせを頂けたことで、年間 83.6%の稼働率を維持することができた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 前年 66%だった稼働率を 81.8%まで延ばすことができた。ひまわりの実績と推移の表を参照。 2 定期的な在宅ミーティングは実施できなかったが、次年度4月より開催予定。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 業務改善 ・タイムスケジュールの改善をはかり、担当業務を明確化したことで、前年より残業を大幅にカットできた。 ・事業継続計画（BCP）のマニュアルの見直しは出来なかったため、次年度の課題とする。 2 業務強化 ・職員の研修時間を確保し、スキルアップを図った。特養の協力により、おむつ交換などの身体介助研修を実施した。 ・保育園との交流を増やしたことで、子どもたちに必要とされ、元気な笑顔に会えることのでご利用者の喜びをより一層高めることができた。 ・ご利用者が楽しめるプログラムを多く提案（クッキング・季節に応じた外出レク・室内ゲーム・ボランティアによる紙芝居・職員によるクリスマスの出し物など）、その様子を写真に収めてご家族へ提供することや営業周りのアピールポイントとして、写真を多く載せた通信を発行するなどした。	

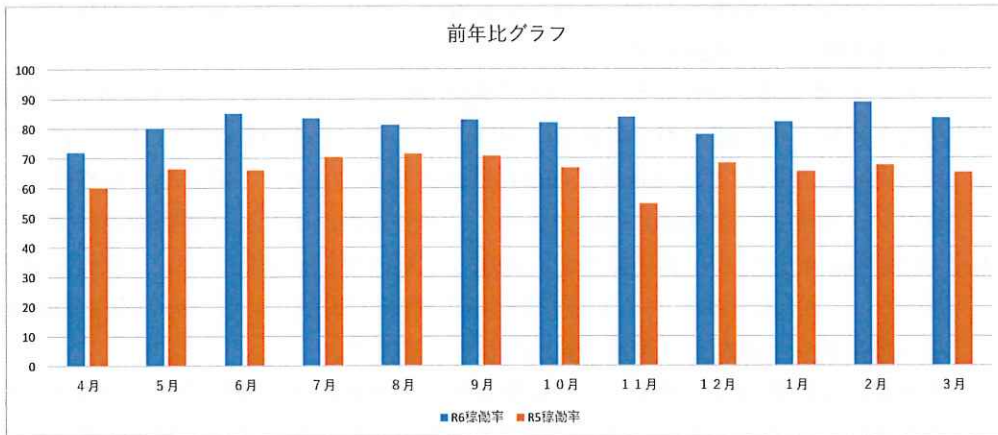
V	残された課題・その他の特記事項
	1 ご利用者の満足感を上げるため、レクレーションに特化した人材の獲得を目指す。 2 介護者の悩みを共有できる場所を提供するためにも家族会開催の実現を目指す。 3 法人内の保育園児との定期的な交流にてより密接に関わることで、ご利用者がいきいきし、園児もお年寄りをいたわる気持ちを育むことができるよう関係性を高め、ひまわりの特徴としていきたい。

【稼働率及び推移表】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
定員数	264	276	240	276	264	252	276	252	240	240	240	252	3072
延べ利用者数	190	221	204	230	214	209	226	211	187	197	213	210	2512
稼働率%	72.0%	80.1%	85.0%	83.3%	81.1%	82.9%	81.9%	83.7%	77.9%	82.1%	88.8%	83.3%	81.8%



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R6稼働率	72	80.1	85	83.3	81.1	82.9	81.9	83.7	77.9	82.1	88.8	83.3
R5稼働率	60	66.3	65.9	70.2	71.4	70.6	66.7	54.5	68.3	65.4	67.5	65.1



令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
事務局		小林 広幸
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 法人の基本理念「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」を深く理解し、理念に根差した福祉を実践することで、誰からも『あったかいがいいね』と言っていただける事務局職員となるように努めた。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 『あったかいがいいね』を地域の皆様に感じていただく取り組みを、職員それぞれの立場で考え具体的に実践し、それを言葉で伝える事ができた。 2 他部門と連携し災害発生・感染症発生・救急搬送・車両事故・設備故障時等において緊急時の初期対応を行う事ができた。 3 仕事の見える化・情報の共有の効率化を進め、組織に欠かせないコミュニケーションの活性化ができた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 自動車事故を減らし自動車保険料を3年間で15%削減する取組み2年目にて、法人内34台分(リース車両込み)優良割引39%+多数割引5%=44%割引(前年度41%)にて契約を更新した。引き続き車両事故を減らす取り組みを行う。 2 各種助成金・補助金申請300万円以上を目標とし、令和6年度神奈川県介護テクノロジーのパッケージ型導入支援事業補助金交付¥8,745,000(税別)を申請したが、公募時期及び決定通知が遅く、Wi-Fi環境整備工期が報告期日に終わらないため申請を取り下げた。次年度公募する予定。 3 それぞれの職員が専門業務に即した研修を自ら探し、年2回以上受講することで、継続性のある、発展的な事業に繋がる様に研鑽を重ねた。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 令和5年度特別養護老人ホーム指導監査時の指摘事項や、令和6年度の集団指導講習会の内容を踏まえ各業務を改善した。 2 令和6年度介護保険制度改正に伴う介護報酬改定に対応し、各種加算等を各職種・各委員会と連携し国保連・利用料請求に繋げることで、年間の収入アップを目指した。 3 26年経過し老朽化した各種設備の修繕計画を作成のため、1級建築士事務所とコンサルティング業務委託を締結し対応を開始して内容を見直すことで経費節減に繋げた。 4 大地震等の自然災害・感染症のまん延など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い時間で復旧させるための事業継続計画(BCP)を各種委員会と連携し、策定の義務付けに対応した。 5 各事業の会計担当者と連携し、社会福祉法人の決算に係る関係書類・計算書の作成を複数体制でミスなく進め、適正な決算書の作成を強化し、法人の財政状態を明らかにすることに努めた。 6 グループセッションのファイル管理機能を活用し、各種委員会議事録等のデータや各種マニュアルを誰でも常に取り出せるように整備した。 7 様々な支出となる内容をチェックすることで、経費削減に繋げた。	

V	残された課題・その他の特記事項
	1 各種助成金・補助金申請を活用し、ご利用者の生活及び介護職員の負担軽減につながる設備を導入する。 2 26年の経過とともに交換部品の製造中止にてメンテナンス困難となる高額設備のエレベーター、防災監視盤、給水ポンプ等の大規模修繕を計画的に実施する。

1 職員の配置状況

R7.3.31現在

		介護老人 福祉施設	短期入所 生活介護	LSA	キッズクラブ	通所(認知)	高齢者食事 サービス	認知症対応部門		シャローム ほろろ	シャローム 五音療育部	沖縄部門			ひかりが丘地域ケアプラザ								計																		
								GM1上白根	GM1西ヶ丘			ベール	ベール1	ベール2	地域・交流	地域包括支援	介護予防支援	生活支援	在宅サービス																						
																			原宅	通所																					
																					現員	現員		現員	現員	現員	現員	現員	現員												
常勤	1					0.1		0.5	0.5	1		0.4	0.8	1	0.125	0.375				0.1	1	7.7																			
事務局	常勤	1.6				0.4		0.4	0.4	0.2	0.4										0.6	4																			
	嘱託	(0.4)	1			(0.1)		(0.1)	(0.1)	(0.05)	(0.1)									(0.15)	(1)	1																			
	非常勤																				(0)	0																			
事務員	常勤	0.5			0.5						1											2																			
	嘱託																				(0)	0																			
	非常勤														(0.15)	1				(0.45)	1	(0.6)	2																		
生活福祉員・ 訪問支援員	常勤	2	1	1		1.2				1.5								1			0.9	9.6																			
	嘱託			(1)	1										(1)	1						(2)	2																		
	非常勤														(0.4)	1				(0.3)	(0.2)	1																			
介護支援専門員	常勤	1															1	1.2		1.7		4.9																			
	嘱託	(1)	1																		(1)	1																			
	非常勤																				(0)	0																			
社会福祉士	常勤							0.5	0.25								1					1																			
	常勤																					(0)	0																		
	非常勤									(0.2)	1											(0.2)	1																		
作業療法士(認知症専門員)	常勤													1								1																			
	常勤	30	5			0.7		4.5	3.75	1.5	9			1						3.8		59.05																			
	嘱託	(1)	1			(1)	1	(2)	2	(6)	6	(1)	1	(3)	3						(14)	14																			
介護職員 保育士	非常勤	(0.74)	21	(0.94)	1	(2.4)	3	(5.6)	10	(5.23)	9	(1.77)	4	(7.53)	14					(3.78)	9	(43.52)	72																		
	常勤																					(2.7)	5																		
	非常勤																						2																		
児童指導員	常勤													1								(1)	1																		
	嘱託													(1)	1							(1.65)	4																		
	非常勤													(1.05)	2	(0.8)	2						2																		
指導員	常勤													1	1								8																		
	非常勤				(1.53)	8						(0.25)	1									(2.18)	9																		
	常勤	3	1								1							1					8																		
看護師	常勤																					0																			
	嘱託																					(6.98)	11																		
	非常勤	(3)	4			(0.1)	1	(0.2)	1	(0.2)		(0.2)	1							(2.38)	4	(6.98)	11																		
技能訓練指導員	常勤	1																				1																			
	嘱託																					(0)	0																		
	非常勤	(0.16)	3	(0.1)		(0.05)															(0.4)	(0.71)	3																		
栄養士	常勤	4								1	2												7																		
	常勤																					(0)	0																		
	非常勤																						7																		
調理員	常勤	4					1			2												(1)	1																		
	嘱託	(1)	1																			(1)	1																		
	非常勤	(8.72)	13			(1)	1			(0.6)	1	(0.88)	2							(3.04)	4	(12.54)	21																		
清掃	常勤	(1)	1																			(1)	1																		
	嘱託	(4.8)	5																		(0.9)	2	(6.28)	8																	
	非常勤																						4																		
洗濯	常勤	(1.53)	4																				4																		
	常勤	0.4						0.1		0.1	0.05	0.1									0.15		1																		
	嘱託	(0.4)	1			(0.25)	(0.35)																1																		
介助員 運転手	非常勤	(2.6)	5			(0.1)	1	(1.29)	5			(0.06)	1	(0.36)	1					(0.3)	1	(4.73)	14																		
	常勤																					(0.05)	2																		
	非常勤	(0.05)	2	(0.01)																																					
医師	非常勤	(0.05)	2	(0.01)																																					
計		(64.8)	112.5	(8.05)	8	(2)	2	(5.13)	13.5	(7.5)	9.5	(2.64)	6	(14.8)	19	(6.79)	21	(10.87)	13.25	(4.17)	34.5	(0.4)	0.4	(6.48)	9.6	(5.4)	7	(3.15)	4.125	(3.375)	3.375	(1.2)	1.2	(1)	1	(1.8)	1.8	(14.8)	21.25	(22.16)	295
事業所の 配置人員	常勤	48.5	7		1	0.5	2.5	1	6	5	7.25	14.5	0.4	3.8	4	1.125	3.375	1.2	1	1.8	0.25																				
	嘱託	(4.8)	6	(0)	0	(1)	1	(0)	0	(1.25)	1	(0.35)	0	(2)	2	(6)	6	(1.65)	1	(3.1)	3	(0)	0	(1)	1	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0.15)	0				
	非常勤	(0.45)	58	1.05	1	(0)	0	(4.63)	13	(3.45)	6	(1.23)	5	(5.8)	11	(5.63)	10	(3.37)	5	(8.57)	17	(0)	0	(1.85)	5	(1.4)	3	(9.99)	2	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(43.55)	21		
	計	(64.8)	112.5	(8.05)	8	(2)	2	(5.13)	13.5	(7.5)	9.5	(2.64)	6	(14.8)	19	(6.79)	21	(10.87)	13.25	(4.17)	34.5	(0.4)	0.4	(6.48)	9.6	(5.4)	7	(3.15)	4.125	(3.375)	3.375	(1.2)	1.2	(1)	1	(1.8)	1.8	(14.8)	21.25		
施設内の 配置人員	常勤	55.5		1	0.5	2.5	1		11	7.25	14.5									14.75																					
	嘱託	(4.8)	6	(1)	1	(0)	0	(1.25)	1	(0.35)	0	(2)	2	(6)	6	(1.65)	1	(3.1)	3	(1)	1																				
	非常勤	(32.55)	59	(0)	0	(4.63)	13	(3.45)	6	(1.23)	5	(5.8)	11	(5.63)	10	(3.37)	5	(8.57)	17	(3.28)	8																				
	計	(92.85)	120.5	(2)	2	(5.13)	13.5	(7.5)	9.5	(2.64)	6	(14.8)	19	(6.79)	21	(10.87)	13.25	(4.17)	34.5	(12.28)	17																				
法人全体	常勤											116																													
	嘱託											(22)	22																												
	非常勤											(83.26)	157																												
	計												(221.36)	295																											

2 職員の入退職の状況

●法人内入職者明細

	令和5年度		令和6年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	4	2	3	0
特養4F	7	6	3	0
医務	1	1	1	4
相談員	0	0	0	0
通所・認知	1	0	0	0
栄養課	1	4	1	3
事務局	1	0	0	2
LSA	0	0	0	1
キッズ	0	2	0	1
GM上	1	1	0	2
GM鶴	0	1	0	6
ケアハウス	0	0	0	0
ひ地域	0	0	0	2
ひ包括	2	0	1	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	0	0	1	0
ひ通所	2	2	0	0
保育園	2	3	2	8
沖縄放課後デイⅠ	0	1	0	3
沖縄放課後デイⅡ	1	1	0	0
計	23	24	12	32

●法人内退職者明細

	令和5年度		令和6年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
特養3F	1	1	0	2
特養4F	5	2	4	2
医務	2	0	0	3
相談員	0	0	0	0
通所・認知	0	1	0	1
栄養課	1	4	1	3
事務局	0	0	0	2
LSA	1	0	0	0
キッズ	0	0	0	2
GM上	0	0	1	3
GM鶴	0	1	0	3
ケアハウス	0	0	0	0
ひ地域	0	1	1	1
ひ包括	0	0	3	0
ひ生活	0	0	0	0
ひ居宅	1	0	1	0
ひ通所	3	4	0	1
保育園	3	3	5	1
沖縄放課後デイⅠ	0	1	0	1
沖縄放課後デイⅡ	0	0	0	0
計	17	18	16	25

3 職員の研修参加状況

施設外研修

	令和5年度		令和6年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	1	1	1	1
5月	2	2	1	1	-1	-1
6月	13	13	3	3	-10	-10
7月	8	8	3	3	-5	-5
8月	6	6	4	4	-2	-2
9月	8	8	6	7	-2	-1
10月	12	12	13	16	1	4
11月	5	5	6	6	1	1
12月	11	25	6	6	-5	-19
1月	6	9	5	5	-1	-4
2月	5	5	1	1	-4	-4
3月	1	1	0	0	-1	-1
合計	77	94	49	53	-28	-41

施設内研修

	令和5年度		令和6年度		増減	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	1	70	2	262	1	192
5月	1	64	3	278	2	214
6月	1	75	2	269	1	194
7月	2	144	1	129	-1	-15
8月	1	85	1	137	0	52
9月	1	72	1	132	0	60
10月	2	91	3	275	1	184
11月	2	78	5	392	3	314
12月	1	70	2	272	1	202
1月	1	71	2	259	1	188
2月	3	183	2	59	-1	-124
3月	3	244	1	37	-2	-207
合計	19	1,247	25	2,501	6	1,254

全体	96	1,341	74	2,554	-22	1,213
----	----	-------	----	-------	-----	-------

4 夜間職員送迎実績一覧

R7/3/31報告

		利用人数						合計	1日あたり 平均 利用人数
		1番送迎①	1番送迎②	2番送迎	3番送迎				
	実施 日数	16:15	17:35	17:55	18:15~18:45	19:00~19:45	20:00~		
4月	30	52	21	41	0	34	54	202	6.7
5月	31	50	31	55	1	34	37	208	6.7
6月	30	44	36	47	1	28	52	208	6.9
7月	31	42	44	56	0	31	56	229	7.4
8月	31	45	32	55	3	37	49	221	7.1
9月	30	40	37	44	3	49	42	215	7.2
10月	31	49	29	47	2	36	51	214	6.9
11月	30	46	46	58	4	33	45	232	7.7
12月	31	40	41	59	5	37	48	230	7.4
1月	31	42	44	57	3	41	44	231	7.5
2月	28	40	50	68	2	19	30	209	7.5
3月	31	32	51	74	0	14	41	212	6.8
	365	522	462	661	24	393	549	2,611	7.2

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
横浜市高齢者用市営住宅等生活援助員派遣事業		溝口 成一
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	・市営ひかりが丘住宅に居住される高齢者の生活相談、見守り、安否確認等を行った。 ・お茶飲みサロンは週に1回火曜日の午後に行いアウトリーチ活動は住宅がリフォーム中だが、新規入居宅等の訪問や包括等の依頼で高齢者宅を訪問し、15件の新規見守り登録があった。高齢者住民の問題の早期発見・早期解決を目指した。 ・相談者実数：187件 相談延べ件数：254件 ・相談内容の内訳 病気：11件、介護：15件、経済面：2件、家事：139件、子育て：0件、家族関係：0件 制度関係：35件、防犯・被害：10件、近所関係：11件、住環境：31件 ・相談への対応(重複あり) 傾聴：254件、情報提供：35件、書類提出支援：25件、助言：73件 その他(応急的家事支援など)：117件、包括や役所等への引継ぎ：11件 ・お茶飲みサロン実施回数：50回、参加者：360名、男性：12名、女性：348名 ・見守り登録世帯数：117世帯（2025年3月31日現在）＊夫婦世帯 1世帯 見守り登録の性別 男性：35名、女性：83名 新規登録世帯 15件、見守り電話回数：2333回、見守り訪問回数：536回	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 相談援助回数：前年実績を上回り、前年比：150.0% 2 見守り事業：登録数117世帯。見守り登録者の孤立死は残念ながら1件あった。 3 お茶飲みサロン：今年度も開催することができたが、高齢化に伴い参加者の下肢筋力が弱ってきたこともあり、杖歩行等の参加者は強風の日や雨の日等はお休みされる方が多く、1回に10名以上の参加者に届かず、1日平均参加者が7.2名と計画を下回った。 4 アウトリーチ活動：新規入居者宅等を訪問して15件の新規登録者があった。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 相談対応後の結果（不満）件数の目標が0件のところ、特に不満の方はなかった。 2 見守り登録世帯の総数は100世帯以上を維持することができた。 3 見守り登録世帯の孤立死件数1件あった。（ここでの“孤立死”の定義は「死後4日以上経過して発見された事例」とする） 4 お茶飲みサロンは週/1回開催することができ、平均7.2名の方々が参加し計画未達成。 5 市営住宅に高齢者の新規入居者が少しあり、新規見守り登録者が15名あった。また、包括や見守り登録者等の口コミで、新規見守り登録をすることができたが、高齢化に伴い、登録解除者が16名いて、世帯数は年度初めより3世帯の微増となった。	

IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）
	1 対人業務のため、業務中のストレスが多々あり、2名の職員のうち1名がメンタル面で3月より休職となり、再び1名で業務を行う事になった。職場復帰が6月頃の予定だが、事務処理が追い付いていない状況である。早く2名での業務ができればと思っている。また、お茶飲み会にケアプラザの生活支援コーディネーターに参加していただき、包括職員とのコラボレーションで住民が興味のある生活に役立つ講演を行い、お茶飲み会参加者を増やしたいと思っている。また、自治会長の意向もあり業務携帯を自宅に持ち帰り、できるだけ早めの電話対応ができるようにする。
V	残された課題・その他の特記事項
	1 相談対応や見守りに関して事務所が遠方なこともあるので、できる限り迅速に対応できるよう心がける。 2 近所関係の相談は解決が困難であるが、状況を把握し相談者に寄り添った対応ができるよう心掛ける。 3 住民が高齢化に伴い、心身ともに弱くなっている見守り対応者が多くなっているため電話対応から訪問メインにする等、状況に合わせてフレキシブルに対応していく。 4 お茶飲みサロンの参加者が減少している為、参加者や見守り登録者等に口こみでお誘いいただけるようお願いする。（特に男性参加者が少ない） 5. 持続可能な事業ができるよう、横浜市に事業委託金増額をお願いし、令和7年度の委託金の増額ができたが希望額に満たなかった為、次年度に向けて引き続き委託金の増額を横浜市をお願いしていく。

令和6年度事業報告 部 門 名		報告者：氏 名
四季の森小学校放課後キッズクラブ		北村 幸恵
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 労働等により放課後に保護者がいない児童が安心して安全に過ごすことができる居場所を提供した。 2 利用児童の通学する小学校をはじめとした地域の団体や関係機関との密接連携をしたクラブ活動を目指した。 3 利用児童が日々のクラブ活動やほかの児童との交流により基本的な生活習慣を身につける事や健やかに育成されることを図った。 4 異年齢児間の遊びや交流で児童の創造性・自主性・社会性を育むことを目指した。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 キッズクラブを利用するすべての児童の安全を確保し、各活動場所の安全点検、おやつのお安全面、衛生面なども含め対策し整えた。 2 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザとのボランティアコーディネーターを通じて、児童と交流した。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 昼間平日参加児童数（利用区分1） 1日平均 8名 予想以上に熱中症アラート発令が多く、平均人数が伸びなかった。 2 夜間平日参加児童数（利用区分2A・2B） 1日平均 17名 夏休みの利用が、昨年度よりも減ってしまい目標に届かなかった。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 外部の講師の方やインストラクターの方をお招きし、体験型イベントを行った。 2 職員研修を受けスキルアップすることができた。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 イベントやプログラムを充実させることにより、児童の利用増加を図る。 2 障害児の需要が高い地域のため、支援員はもちろん補助員の研修参加を促しスキルアップを図る。 3 障害児とは別に配慮が必要な児童が増え、支援員・補助員のスキルはもちろん限られた人員で安全に活動できるよう図る。	

令和6年度 イベント・プログラム報告書

日程	イベント・プログラム	内容	参加児童数
4/4	春の遠足	遠足 里山ガーデン	21名
4/25	サムライ・キッズ	HipHop	36名
5/17	じゃんけん大会	体を動かしながらじゃんけんを楽しむ	38名
5/22	横浜FCと遊ぼう	横浜FCのコーチと楽しくサッカー	41名
5/23	サムライ・キッズ	HipHop	40名
6/24	サムライ・キッズ	HipHop	36名
6/28	食育	七夕ゼリーをたべよう	40名
7/13	親子イベント・保護者会	ジェルキャンドル	児童17名・保護者10名
7/16	サムライ・キッズ	かけっこ	34名
7/29・30	DVD鑑賞会	DVD鑑賞	29日 34名・30日 30名
8/8	サムライ・キッズ	かけっこ	23名
8/23	キッズ緑日	引きくじ・的あてなど	38名
9/19	サムライ・キッズ	かけっこ など	35名
9/26	食育	お月見団子	34名
10/5	秋の遠足	遠足 里山ガーデン	15名
10/31	サムライ・キッズ	ハロウィンゲーム	28名
11/25	サムライ・キッズ	ウエイトリフティング	24名
12/16	サムライ・キッズ	ウエイトリフティング	28名
12/23	お楽しみビンゴ大会	クリスマスビンゴ大会	46名
1/18	ワークショップ	干支のアイロンビーズ	19名
1/30	サムライ・キッズ	ウエイトリフティング	27名
2/19	横浜FCと遊ぼう	横浜FCのコーチと楽しくサッカー	31名
2/22	餅つき大会	土曜塾コラボ	児童29名・保護者等15名
2/26	サムライ・キッズ	体操	28名
3/8	親子イベント 保護者会	お菓子でお茶会	児童25名・保護者等16名
3/17	駄菓子パーティー	買い物感覚で駄菓子をもらいみんなで食べる	41名
3/26	サムライ・キッズ	韓国語講座	25名

事業報告書

令和6（2024）年度



社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム 桜山

2024 年度 シャローム桜山 事業報告

シャローム桜山では、生活自立度の高い高齢者が在宅生活で特に困難を感じる食事と入浴を中心にサービスを提供しています。

2024 年度は制度上、ケアハウスに課せられている役割の充実と社会的責任を理解した上で、入居者が主体的に日常生活を営むことが出来るように支援することを目指しました。しかし、現在の入居者の状態を見ますと、身体的な自立度や認知機能の面で全体的にレベルが低下しているように感じます。

これは当施設の問題にとどまらず、そもそも在宅で生活する多くの高齢者が同じような傾向にあり、地域社会全体で認識すべき課題のようです。実際、自立した生活を送れる限界まで在宅におられるので、入居を希望される時点ですでに自立型のケアハウスが受け入れられる限界近くに達しておられます。

自立型のケアハウスの視点で見ると、元気なうちは意識しにくい加齢とともに生じる生活上の問題に対して、いかに早い段階で先々を見通した決断をするかで、人生の最後のステージをどのように過ごすかが変わってくると考えます。

これらのことを念頭に昨年度の活動内容を振り返るとき、入居者の個別支援を如何に充実させるかが大きな課題のひとつであったと認識します。

限られた人員と経営条件の中で個別の課題に向き合い対応することは困難なことも多々ありましたが、その中で行われる職員の自発的な働きは、福祉の心を十分に表し法人理念に基づいた対象者に寄り添う姿勢だったと評価します。

個別の課題への取り組みについては、入居者の要望がケアハウスが担える業務の範疇を超えることもありましたが、そのことに対して、人的問題や経営的問題等から不十分なこともありましたが、実際、入居者の抱えるニーズとその方の希望や要望が異なることもあり、このような場合は福祉の視点でニーズを把握し、十分なコミュニケーションを取って課題の解決に向けた調整をするスキルが求められました。

経営的な課題については、当初立てていた予算を大きく下回り、約 900 万円のマイナスを計上することになりました。マイナスに関する最も大きな要因は人件費の増加で、次年度にむけて経営の改善計画を立て取り組み始めました。

2024 年度の事業報告について、以降の頁で詳細をご報告致します。

ケアハウス シャローム桜山
施設長 村本英邦

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏名
ケアハウス		遠藤 裕之
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 基本方針を念頭に、入居者に謙虚な姿勢で寄り添うことを共通の目標とした。 2 入居者の生活の質を向上に向け、家族（身元引受人）や関係機関と連携をとった。	
II	業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
	1 入居者の生活課題を的確に捉え、必要なサービスを検討してそれに繋げる ・要支援・要介護の認定を受けている入居者の日常生活課題を職員間、家族と共有した。 ・ケアマネジャー、地域包括支援センターとの連携強化を図った。 2 ケアハウスの社会的な位置付と役割を理解し、入居者の心と身体のケアに当たる ・軽費老人ホームの設備及び運営基準第に基づいたサービスの提供に努めた。（食事の提供、入浴等の準備、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与等） 3 継続性のある発展的な事業内容を考え実践する ・相鉄ローゼンと契約したことで、販売車を定期的な訪問が可能となった。	
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
	1 事業継続のための収支の安定化：入退去に係る居室管理 ・入居待機者の状況把握に努め、待機者リストを適切に管理した。 ・有償サービスについては、ニーズが多くなかった。 ・入居者の確保に向けた営業（2人部屋5組、1人部屋20名の確保）を行った。 ・3月末日の待機者数は2人部屋3組、1人部屋21名。 2 事業継続のためのリスク管理：各種BCPの策定 ・虐待防止について毎月のミーティングで見直したが完成に至っていない。次年度へ継続。 ・災害時の業務継続計画（BCP）の研修に参加しマニュアル整備を行った。 ・感染症委員会に出席し、委員会で作成・見直ししているマニュアルを使用した。 ・最新の生活のしおりに体調不良時の対応、感染症発生時の対応について記載した。 3 事業継続のための福祉の本質理解：入居者との良質な関係構築 ・入居者の適切な健康管理を目的とした声かけと心身の状態の把握に努めた。 ・入居者の精神的な安定を図るために積極的な声掛けを行った。 ・入居者間のトラブルが長引かないように早いタイミングで介入した。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み （改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 食事のスタイルを栄養課と連携しながら見直し、令和7年4月から会食式に変更した。 2 入居者の身体機能の健康維持のため、「らくらくストレッチ体操」を定期開催した。 3 夜間の安全の確保について取り組んだ（オンコールの体制を見直した）。 4 適切な緊急対応を目的とし、懇談会やさくらやま便り等で緊急時情報の更新を促した。 5 各種研修を通して職員のスキルアップを目指した。（動画研修、外部研修の共有） 6 地域包括支援センター・医療機関（病院・薬局）と連携を深めた。また地域の大手スーパーの定期訪問販売を開始することができた。 7 入居者の主体的交流のための場を提供する。（お茶の会・紙芝居・ボードゲーム・歌等）	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 入居者の平均年齢は男性83.5歳、女性85.4歳。90歳以上の入居者が30パーセントを占め、今後これらの入居者の支援が課題になってくる。 2 各種設備が更新の時期を迎えており、今後現状より多くの負担が増える。	

1. 現況の報告

1) 人数・年齢（令和7年3月31日現在）

区 分	人 数	最高年齢	最若年齢	平均年齢
男性	15	96	71	83.5
女性	35	102	72	85.4
合計	50	102	71	84.8

2) 年齢階層別表（令和7年3月31日現在）

年齢／性別	男 性	女 性	計	比 率(%)
～59才	0	0	0	0
60～64	0	0	0	0
65～69	0	0	0	0
70～74	2	3	5	10
75～79	3	3	6	12
80～84	3	10	13	26
85～89	2	9	11	22
90～94	4	8	12	24
95～99	1	1	2	4
100～	0	1	1	2
合 計	15	35	50	100

3) 入居前住所別人数（令和7年3月31日現在）

区 分	神奈川県			神奈川県外		合計
	市内旭区	市内旭区外*1	横浜市外*2	東京都*3	都外*4	
男性	2	7	2	3	1	15
女性	6	10	4	7	8	35
計	8	17	6	10	9	50

*1 港南区2名・保土ヶ谷区4名・戸塚区4名・鶴見区2名・南区1名・栄区1名・緑区1名・都筑区1名・泉区1名

*2 鎌倉市2名・川崎市1名・横須賀市2名・大和市1名

*3 台東区1名・大田区2名・中野区1名・小平市1名・多摩市1名・立川市2名・町田市2名

*4 千葉県1名・佐賀県1名・北海道1名・大阪府1名・沖縄県1名・埼玉県1名・長野県1名・兵庫県2名

4) 入居・退去の状況（令和6年度）

区 分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入 居	男性	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	1	7
	女性	0	0	1	2	1	0	0	0	1	0	1	7
入居者合計		0	1	1	4	1	0	2	0	1	0	2	14
退 去	男性	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女性	1	1	0	0	3	0	0	1	0	1	0	8
退去者合計		1	1	1	0	3	0	0	1	0	1	0	9

5) 入院者数（令和6年度）

区 分	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
女性	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	14
計	1	2	3	1	1	1	1	1	1	2	2	2	18

6) 介護保険認定者一覧（令和7年3月31日現在）

区分	認定 なし	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
男性	8	2	1	3	1	0	0	0	15
女性	17	4	5	4	3	1	1	0	35
計	25	6	6	7	4	1	1	0	50

7) 入居率（令和6年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間平均
人数	45	45	45	48	49	46	48	48	48	48	49	50	
%	90	90	90	96	98	96	96	96	96	96	98	100	94.8

8) 有償サービス数（令和6年度）

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
薬管理	180	165	150	140	124	120	124	120	131	177	107	124	1662
居室配膳	148	301	209	233	155	202	98	131	230	178	89	119	2093
その他	8	6	7	7	3	2	3	2	7	16	2	3	66
合計	336	472	366	380	282	324	225	253	368	371	198	246	3821
収入 (千円)	39.4	42.55	40.45	38.65	28.15	25.1	27.3	21.55	49.6	69.1	20.15	22.35	424.35
達成率	78.8	85.1	80.9	77.3	56.3	50.2	54.6	43.1	99.2	138.2	40.3	44.7	70.725

9) 入居者懇談会（令和6年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
開催月	×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	○	
人数				32				37				41	

【補足説明】

毎月開催されていた入居者懇談会は、コロナ禍以降、感染防止の目的から暫く休会していましたが、本年より開催しました。開催当初は参加を怖がる方もおられましたが、開催による感染症の発生は確認されませんでした。来年度は年間4回の開催を予定しています。

事業報告書

令和6（2024）年度



社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ

【目次】

1 所長（基本方針）	2
2 地域包括支援センター	3
3 地域活動交流部門	4
4 生活支援体制整備事業	5
5 居宅介護支援事業	6
6 通所介護事業	7

令和6年度 横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ事業報告

所長 滝沢 泰彦

1. 主要な取り組みと成果

① 地域の身近な相談窓口としての機能強化

日常業務を通じて、地域住民からの多様な相談を受け付け、適切な対応を行った。特に高齢者や障害者など、多様なニーズに対応できるよう、地域包括支援センターや区との連携を強化し、その結果、支援が必要な住民へのアプローチが円滑に行われ、適切な支援につなげることができた。

② 適切な支援策の実施と連携

相談を受けた後の支援策の立案・実施に積極的に関与し、必要に応じて関係機関と連携した。特に、一人暮らしの高齢者や経済的困難を抱える家庭への支援を重点的にを行い、具体的な支援につなげることができた。

③ 地域課題の把握と解決への取り組み

地域の課題を把握するため、定期的なアンケート調査や地域住民との意見交換を実施した。これを受け、サロン活動や健康づくりイベントの充実を図り、住民同士の交流機会を増やす取り組みを進めた。

④ 行政・関係機関との連携強化

区役所、区社会福祉協議会、他の地域ケアプラザとの情報共有を強化し、個別支援を通じて得た課題を共有した。

⑤ 「きらっとあさひプラン」推進と地域福祉の展開

社会福祉法人アドベンチスト福祉会の理念である「いのちを敬い いのちを愛し いのちに仕える」のもと、上白根地区の「地域福祉保健計画」を推進しました。特に、地域住民が安心して自分らしく暮らせるまちづくりを目指し、地域の課題解決と住民の主体的な参加を促進した。

横浜市ひかりが丘地域ケアプラザは、今後も「地域の身近な福祉拠点」としての役割を果たし、地域住民の皆様とともに、支え合い、安心して暮らせる地域づくりに尽力していく。

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域包括支援センター		松田 敏明
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	地域包括支援センターは、地域で生活されている方々の心身の健康保持及び生活の安定のために必要となる支援を実施する機関であり、その活動を通じて地域の保健医療の向上及び福祉の増進に寄与している。（介護保険法第115条の46第1項） 令和6年度は人員体制の大幅な変更があったため、当初予定計画の一部について規模を縮小してはいるが、当初計画していた年間の事業は概ね継続実施することが出来た。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 「総合相談」 受理件数は減少しているが、件数に対する訪問割合は倍増した。 2 「認知症支援事業」 啓発活動を例年通り実施。地域からの相談も受理出来ている。 3 「権利擁護」 虐待疑いの相談に丁寧に対応することで深刻な事態を防ぐことが出来た。 4 「包括的・継続的ケアマネジメント」 人員体制が整わない期間では中止縮小していた。体制も整いだったので再開する目途は出来ている。 5 「在宅医療・介護連携推進事業」 従来からの連携先も人員不足という課題に直面している。新たな連携先が増えるよう、声掛けの範囲を広げている。 6 「指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）」 委託先が見つからないという深刻な現状がある。包括担当件数が増えている。 7 「地域ケア会議」 綿密な準備を行ったことで、新たな賛同に繋がっている。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 年間の相談総件数は731件であった。 2 アルツハイマー月間に啓発活動を実施。DVD上映会も予定通り実施出来た。 3 ケアマネジャー支援のための研修は他機関合同で1回実施することが出来た。 4 地域ケア会議は個別レベル2回包括レベル1回を実施した。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 日々の事務作業の負担を軽減させるために作業ツールの見直しを行った。 2 職場環境改善のため、書類保管場所の移動等、レイアウトの変更を行った。 3 新任者が環境や業務に早く馴染めるよう、業務チェック表・研修日報を改訂した。 4 対応困難ケースのカンファレンス実施。相談員が支援を検証的に振り返ることが出来た。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 支援の担い手不足が区内全域の共通課題。立ち位置により、その認識に温度差がある。 2 公営住宅新規入居者の福祉ニーズを掴み切れていない。 3 安否確認など、緊急性の高い要望に応じ切れていない。 4 戸建て住宅からの相談件数が少ない。 5 認知症の当事者からの声を聴けていない。対話の機会や場が設定できていない。 6 大切な家族や友人知人を亡くされた方々の悲しみに寄り添えていない。 7 所属相談員の専門的スキル向上のための体系的な学習システムが構築されていない。	

令和6年度事業報告 部門 名		報告者：氏 名	
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 地域活動交流部門		福士 春美	
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）		
	1 ケアプラザが、地域福祉の拠点としての使命を理解し取り組んだ。 2 住み慣れた地域で安心して暮らせるよう福祉保健サービスを関係機関やケアプラザの五職種との連携を強化して、支援し、新たな活動の場を提供することが出来た。 3 上白根地区第 4 期地域福祉保健計画の最終年として振り返りを行い、4 つの目標（あいさつ活動・見守り活動・防災活動・助け合いの仕組み作り）を推進することが出来た。 4 地域の情報を収集し、継続性のある、発展的な事業内容を実践することが出来た。		
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）		
	1 関連機関や他職種と連携する為に会合や連絡会へ積極的に参加した。 2 減少している幼児・児童と、高齢者を結ぶ多世代交流イベントを季節ごとに企画した。 4 地域住民のニーズに合った自主事業を実施するために、自治会・近隣事業所・他ケアプラザなどと情報を共有し、質を高めることが出来た。 5 利用者が安心して使用できるように、敷地内の衛生環境、建物や庭、設備等を整え、あたたかい窓口対応と、迅速な対応を行えるよう創意工夫に努めた。		
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）		
	1 来館者数 月 1,300 名以上を目標としたが、月平均 1,224 名だった 2 施設外研修に年 6 回以上参加を目標としたが、担当者変更があった為達成できなかった。		
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）		
	1 五職種連携に努め、地域の見守りネットワークや居場所づくりなどの需要に応えられるよう情報収集を行い、共有した。 2 子どもの居場所作りミーティングを毎月定期的に行うことが出来た。 3 地域との防災活動に協力した。		
V	残された課題・その他の特記事項		
	1 多くの計画を立てていたが、コーディネーターの交代等があり、引継ぎや、業務になれることが中心となり、計画通りに進めることは出来なかった。次年度は計画通り進められる様、努力していきたい。		

令和6年度事業報告 部 門 名		報告者：氏 名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 生活支援体制整備事業		松村 宏一
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし、生きがいを持続けられるために、地域のつながりや助け合いの仕組みづくりを多様な主体と連携しながら進めた。 支援する、されるという一方的な関係ではなく、ときに支え、ときに支えられるという双方向での共助の関係づくりに主眼をおいて地域づくりに努めた。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 支援の必要な方に対して、地域内の多様な主体が連携して支え合いと見守りの体制づくりを進めるため、支えあい連絡会および3委員会（あいさつ、見守り、防災）での住民同士の話し合いを事務局としてサポートした。 2 高齢者が地域の中で役割を持ち、生きがいを感じられるような居場所や交流の場の創出に努めた。 3 世代間での交流を促進する事業を開催し、住民同士の顔の見える関係づくりに努めた。 4 旭区生活支援コーディネーター連絡会に参加し、他地域のコーディネーターと協働しつつ、区域での食事サービスやボランティア団体の活動への支援を行った。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 介護予防と住民同士の交流を目的とする事業（コンサート、ダーツ体験会等）の回数は年間10回に止まったものの、各回10～20名程の方が集まる通いの場として開催することができた。 2 地域での福祉活動へ積極的に参加し、施設広報誌やブログにて年間15件以上の紹介を行うことで、活動の活性化と参加者・担い手の増加に努めた。 3 四季の森小キッズクラブとの連携により地域交流事業を開催し、子ども8人、大人10人の参加者、モルックのゲームを楽しみながら世代間の交流を行った。 4 講座や施設見学会等の開催により、高齢者が必要としている情報（介護サービス、健康づくり、認知症の理解等）を得る機会を年間5回以上提供した。 5 旭区食事サービス連絡会は年間1回開催となったものの、4つの団体へ取材を行い、事例発表を通じて、団体間の情報交換の機会を設けた。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 地域内の福祉施設との連携を強め、懇談会を立ち上げて定期的に意見交換を行う場を設けた。また、施設が開催する行事等の情報を住民に周知し、地域サロンへの施設スタッフの出向を仲介するなど、地域住民と施設との交流促進に努めた。 2 スマートフォン講座を開催することで、ICTの利用に困難を感じている高齢者をサポートし、必要な情報の取得や人とのつながりを維持するツールの活用を支援した。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 地域活動の担い手不足が続いており、新たなボランティア人材の発掘・育成が課題として残っている。 2 地域福祉保健計画の推進にあたっては、個別に行われている取り組みに加えて、関係機関同士の連携を拡大し、相互に協力し合える関係をつくることが求められている。	

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 居宅介護支援事業		江口 直美
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 介護保険の理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」、「自分らしい生活の維持」及び「自立支援」を基本とした。常に利用者の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、そのプランに従ってサービスが提供されるよう関係事業者と調整しながら在宅生活が継続できるよう支援を行った。	
II	業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
	1 他の専門職との連携 ・民生委員懇談会への出席、ケアプラザ協力医とのケースカンファレンスへの参加、サービス事業所、地域包括支援センター、行政、医療機関等からの相談の対応など 各機関との連携を深めた。 ・予防介護支援事業所と協力し予防支援居宅サービス計画書を作成した。 ・旭区内からの認定調査の委託に対応し地域の方々に資するように努めた。 2 専門的知識と技術の向上、信頼に繋がるサービスの提供。 ・月に一回事業所内事例検討会を実施、他ケアマネからの意見を得られる場を作った。 ・包括、地域、行政、医療など各方面からの情報、助言を受け緊急の際も早急に対応出来る体制を維持した。 ・「サービス内容に関する利用者アンケート」を実施し業務の振り返りと改善を図った。	
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
	9月より1名増員なるも令和7年1月に休職、4月退職となり現在、2人体制。 1 居宅サービス計画作成件数：年間目標720件に対し833件 2 介護予防支援計画作成件数：年間目標180件に対し195件 3 認定調査受託件数：年間目標120件に対し42件 4 事例検討会の実施：年間6件	
IV	業務の改善・強化・新たな試み （改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 1名入職するも、退職となり、再度増員を計画している。 2 個々の質を上げるための研修が、日々の業務の中で思うように参加できなかった。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 人員が不足している。 2 利用者の状況、望む生活が多様化、複雑化するなか、ケアマネジャーにも介護保険のみならず、生活保護制度、障害者福祉、権利擁護、医療保険、年金制度などの社会保障制度の知識が必要となっている。個々において習得を目指す。	

令和6年度事業報告 部 門 名		報告者：氏 名
横浜市ひかりが丘地域ケアプラザ 通所介護事業		穴道 美知子
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 「あったかいがいいね」をモットーに、利用者を敬い、利用者に寄り添うことで利用者の生活意欲の維持・向上を目指し、利用者やその家族の孤立を防ぐサービスを目指す。 独居（日中独居含む）による孤独感を、デイサービスを利用し他ご利用者や職員と関わることで和らげることができた。家族の孤立感に関して、積極的な働きかけは少なかった。 2 初心に戻り、職員全員が謙虚さ・向上心を持ってケアに当たる。 各職員が、自身のすべきことを理解し、積極的に業務にあたることができている。ただ、連携に関して不十分な個所もあり、お互いに声掛けをより意識していく必要がある。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）	
	1 「また来たい」と思っていただけのデイサービスを目標に、レクリエーションの充実と職員の積極的なコミュニケーションを目指す。 午前中の体操レクのルーティン化や園芸レクの開始によりご利用者の意欲の向上効果を得られた。今後は職員とのコミュニケーションが増えることで「ここに来てまたこの人と会いたい」と言う気持ちを持っていた様、サービスの向上を図りたい。 また、ボランティア様の積極的な受け入れを行った。 2 利用者や家族に必要なサービスを理解し提供できるよう、「利用者アンケート」等を通じて情報を収集しケアマネジャーや各事業所・地域包括支援センター・医療機関と情報を共有し、連携を図る。 必要機関との連携は取ることができたが、ご利用者・ご家族がどのようなサービスを必要としているのか、どのようなサービスが必要なのかを検討することが不十分であった。 3 利用者にとって利益となるよう、職員の資質向上に努める。 職員それぞれの個性が活かされることで、意欲的なデイサービス作りを目指すことができた。介護技術に関して、まだ資質向上の可能性が見られる。 4 業務継続を目的として日常的に体調管理、衛生管理、検査等、感染症対策に留意し、利用者や家族、職員が安心できる環境づくりに努める。 利用者の日々の関りから、体調不良の早期発見に努めることができた。職員の体調管理の一環として、柔軟なシフト調整を行った。 5 デイサービス内で情報を共有し、日々変化する利用者の体調に合わせ食事が提供できるよう取り組んでいく。 日々、粥の用意や 体調に合わせた味付けの対応など、厨房と連携し実施した。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）	
	1 一日平均延 30.0 人の利用者数を確保した（通常規模・定員 40 名）。 2 一食あたりの食材単価が 400 円以内になるようメニュー作成を行う。 実施できた。物価高騰の対策として、おやつを手作りにする日数を増加するなどの工夫の結果、昼食の内容を大きく落とすことなく提供することができた。 3 年間で 4 件以上、ケア向上を目的とした研修を実施する。 毎月のワーカーミーティングにて、新規や困難事例の検討会を実施。特に認知症の方に対して理解を深める為の研修会を多く実施した。	

IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果） 1 事務作業を見直し、簡素化することで事故を防ぐ。またそうすることでご利用者に関わる時間を確保する。 施設内事故報告件数6件（前年度10件）。日常業務へのファーストケア導入により、転記作業の省略化を行ったことが大きく影響している。ご利用者に関わる時間を確保したことで、困難ケースの新規ご利用者に対応することもできた。 2 BCP マニュアルを元に災害や感染症が発生した場合にも、利用者の利益の優先を目的に可能な限り業務を継続する。 規定回数の研修を実施した。 3 事務作業の精査・簡素化をすることで、利用者への目配り気配りを強化し事故防止を目指す。 ノートパソコンを活用し、ご利用者に目配りをできる環境での事務作業も可能となった。今まで手作業にて管理していたご利用者情報をファーストケアの情報を活用することで、漏れと手間を省くことができた。 4 利用者にとって満足度の高い食事のため、新しいメニューに挑戦し、反応を観察していく。 ワーカーミーティング内では手作りおやつの中の試食会も実施した。
V	残された課題・その他の特記事項 1 大きな稼働率の改善が見られていない。 2 適切な室温などの環境整備が必要。 3 ご利用者に「また来たい」と思ってもらえるような更なる良好なサービス体制の構築

事業報告書

令和6（2024）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

グループホーム シャロームミルトスの木

グループホーム シャロームミルトスの木鶴ヶ峰本町

令和6年度 グループホーム事業報告

施設長 渡部 紀久

今年度、ホームでは歌や腹話術・獅子舞等の地域の方々のボランティア受入れを再開する事ができた。またコロナ禍以来数年ぶりの事であるが、お正月には何名かのご利用者が、自宅にてお正月をお祝いできた。まだ限定的ではあるがホームでの生活は新型コロナ以前の状態にかなり近づいてきたと言える。

しかしながら、昨年5月より新型コロナウイルスが感染症法上の第五類となったとはいえ、ミルトスの木(上白根)ではクラスターが起きてしまった。幸い重症化する方はいなかったが、感染症対策に終わりが無い事を実感した。

さて、令和6年度においてホームでの一番の特記事項は、ミルトス(上白根)ミルトス鶴ヶ峰本町双方で横浜市の担当官が来訪し運営指導が行われた事である。新型コロナの蔓延もあり運営指導が行われるのは実に5年ぶりの事であった。幾つか手続きの問題で軽微な指摘はあったが、おおむね横浜市の運営基準に則ってホームが運営されている事が確認できた。

次に、ミルトスの木(上白根)の土地建物賃貸契約の更新が成約し、来年度以降も現在の土地建物を使わせて頂き、ホームの事業を継続する事が確定した。さらにミルトスの木鶴ヶ峰本町でも、年始に大家様と面談し20年の賃貸契約満了後も継続して使用させて頂く内諾を取り付けた。これで、両ホームとも器としての事業継続体制は整った。

但し、この1年間、目標としていた稼働率に近いところで運営はしていたものの、お米をはじめとする食品やその他生活物資の著しい高騰はホームの収支を直撃した。若干の物価高騰補助金は給付されたものの、焼け石に水で、令和6年度の収支は大きなマイナスとなってしまった。今後、強い覚悟を持って支出の大幅な削減、新たな加算の取得などの収入の増額を実現しなければならない。

最後に、令和6年度も感染症対応など多くの困難な状況に直面した。そのような状況下で共に働き励まし合って下さった職員一人一人に心よりの感謝をお伝えし、昨年度の事業報告とする。

目 次

令和6年度
アドベンチスト福祉会
グループホーム

シャローム ミルトスの木 （上白根） 事業報告	
事業報告、現況報告	3
行事報告	5
職員研修	6
シャローム ミルトスの木 鶴ヶ峰本町 事業報告	
事業報告、現況報告	7
行事報告	9
職員研修	10

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏名
シャローム ミルトスの木（上白根）		治部 実
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 各ご利用者の能力を活かして、自立した日常生活を維持できるよう、またご利用者が穏やかな生活を送ることができるように寄り添った支援を行うように努めた。 2 7月に新型コロナウイルス、1月にインフルエンザの陽性者を出してしまった。それにより入院されたご利用者はいたが、重症化することはなかった。引き続き感染症に対する対策を行い、注意深く対応する必要がある。 3 各ユニット内にシャロームの基本理念を掲げ、職員への周知徹底を図った。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと） 1 毎月のユニットミーティングでご利用者ごとにカンファレンスを行うことで、個別の支援を行うことに努め、おおそ達成できた。今後も画一的なケアではなく、ご利用者に応じた個別的なケアを重視していきたい。 2 新型コロナが第5類に分類され、面会や外出外泊についてコロナ前の状態に戻したいと思っはいるが、度々のコロナ感染で難しさを感じる。但し、ご家族にホームへの面会を促した結果、昨年度の年末年始の外泊が0組だったのに対して、今年度は2組あった。 3 適宜区分変更の申請を行いご利用者の状態に合った介護報酬の請求を行い、Lifeを軌道に乗せることで加算を取得し収入の上積みを図ったが、食品や水道光熱費をはじめとする物価の高騰で、収支上、厳しい状況が続いている。 4 新型コロナの影響により上白根ケアプラザのお茶のみサロンへの参加や地域との交流を深めるのは未だ困難であった。また、外部研修への参加ができなかった。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 1日一回はホーム内での体操や散歩に加え、キュービーの活用で筋力維持に努めた。 2 BCPや消防法規による訓練や研修は目標としている回数を実施できた。特に防災食は通常ご利用者が食べている食事形態に合わせたものを実際にご利用者に食べて頂き、容器の形状・食事形態も含め適正かどうかを検討した。 3 サービス提供体制強化加算（Ⅲ）と認知症専門ケア加算（Ⅰ）は達成した。 4 入居率96.2%、目標としていた97%には届かなかった。	
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 食材業者を変更し、3食全てを湯せん調理にした。これにより、感染症が発生し職員が少ない中でも滞りなく食事を用意することができた。 2 運営推進会議に地域の民生委員に出席して頂くよう打診したが、体調不良のために実現しなかった。 3 見守り支援カメラを活用することで、転倒事故の検証や再発防止の取り組みができたため、骨折等の大きな転倒事故を未然に防ぐことに効果をあげた。 4 さらなる食費及び経費を削減するために、新たな食材業者との交渉をおこなったが、成約には至らなかった。 5 月に1度特別なおやつ時間を設け、季節感のある果物やお菓子を提供し好評であった。	

V	残された課題・その他の特記事項 1 7月の新型コロナウイルス、1月のインフルエンザで、感染が拡がりクラスターになってしまった。初動の対応を再度検証し、今後に活かしたい。 2 ホーム内での ICT を検討し、実践することはできなかった。また、全ての職員がスマートフォンを使用していないため、新しい連絡網の構築はできなかった。 3 職員の高齢化に伴って人員配置やタイムスケジュールなどの見直しや検討が必要となっている。 4 さらなる人件費の削減及びホームの収益改善を図っていく必要がある。特に今年度は人員不足により、派遣職員を雇った結果、人件費のコストが高額になってしまった。人件費削減の上でも安定した人員確保が課題となっている。
---	--

1 各ユニットの入居者状況

各階 9 名定員

合計 18 名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1 階	女性	5	95	2 階	女性	3	90
1 階	女性	2	87	2 階	女性	3	88
1 階	女性	2	84	2 階	女性	3	92
1 階	女性	2	86	2 階	女性	3	87
1 階	男性	3	75	2 階	女性	1	97
1 階	女性	2	90	2 階	女性	2	86
1 階	女性	2	85	2 階	女性	3	94
1 階	女性	1	88	2 階	女性	3	90
1 階	女性	3	99	2 階	女性	3	91

1 階	平均年齢	87.6 歳	平均要介護度	2.44	最高齢	99 歳
2 階	平均年齢	90.6 歳	平均要介護度	2.67	最高齢	97 歳
ホーム平均		89.1 歳	ホーム平均	2.56		

2 入院者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女性	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	1	7
計	0	0	0	2	1	0	0	0	2	2	0	1	8

3 入居・退居の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居	男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	女性	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	4
入居者合計		0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	5
退居	男性	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	女性	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4
退去者合計		0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	5

4 行事報告

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	お花見散歩 腹話術 里山ガーデン散策 歌の会	10	白玉ぜんざいを食べる (季節のおやつ) 柿 歌の会
5	母の日のお祝い 歌の会	11	お誕生日会 紅葉散歩 歌の会
6	ヘアーカット 歌の会	12	お誕生日会 ヘアーカット クリスマス会 (季節のおやつ) リンゴ 年越しそば 歌の会
7	七夕の飾り付け お誕生日会 歌の会	1	おせち料理 獅子舞い お誕生日会 (季節のおやつ) イチゴ 歌の会
8	お誕生日会 (季節のおやつ) クリームソーダ スイカを食べる 歌の会	2	節分(豆まき) (季節のおやつ) あんみつ お誕生日会 歌の会
9	敬老の日のお祝い お囃子 お誕生日会 ヘアーカット (季節のおやつ) 梨 歌の会	3	お誕生日会 ヘアーカット 夜間想定避難訓練・消火訓練 (季節のおやつ) ぼた餅 歌の会

- ・ 毎月1回・・・・・・チャプレンのお話
- ・ 毎月第4木曜日・・・・・・歌の会ボランティア
- ・ 各誕生日・・・・・・おやつにケーキでお祝い
- ・ 毎月1回・・・・・・季節感のあるおやつを提供する

5 運営推進会議

奇数月年6回開催

※出席者：自治会長1名・ケアプラザ包括1名・入居者代表1名・利用者家族1名・ホーム
長・各ユニット長

* 令和6年度の運営推進会議は6回開催した。(すべて対面による会議であった)

6 職員研修・実地訓練記録

研修月	研修名	ホーム内・外部
令和6年4月	個人情報の保護について（クイズあり） 感染症の予防（実地訓練を実施） * マスクの着脱 * ガウンテクニック	ホーム内
5月	感染症の防止について 実地訓練 ノロ対応 吐物処理について	ホーム内
6月	介護の力で虐待防止 高齢者権利擁護・虐待防止（青山）	ホーム内 ZOOM
7月	食中毒について	ホーム内
8月	転倒転落防止	ホーム内
9月	身体拘束の適正化について 非常食の訓練・担架の使い方訓練	ホーム内
10月	職場でのハラスメント対応 高齢者虐待防止一斉点検 消火訓練・簡易トイレ・発電機の起動訓練	ホーム内
11月	BCP（事業継続計画）机上訓練	ホーム内
12月	新型コロナ・インフルエンザについて * ゾーニングについての机上訓練	ホーム内
令和7年1月	高齢者虐待防止について 高齢者虐待防止一斉点検の振返り	ホーム内
2月	高齢者の権利擁護	ホーム内
3月	防災について 夜間想定避難訓練・消火訓練	ホーム内

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し 半年毎

令和6年度事業報告 部 門 名		報告者：氏名
シャローム ミルトスの木鶴ヶ峰本町		浅岡 真美
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表） 1 ご利用者の能力に応じ、自立した日常生活を維持できるように支援できた。 2 ご利用者の安全を確保し、安心した生活を提供できた。また尊厳ある支援を家族や訪問医との協力の中で行う事ができた。 3 新型コロナウイルスが5月より第五類となった以降も継続的に感染症防止対策の向上に努め、ホーム内での感染症発症は無かった。 4 感染症対策を行い、歌・腹話術・獅子舞等、ボランティア受入れを再開する事ができた。	
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと） 1 避難訓練は目標としている回数を実施できた。防災食は食事形態に合わせたものを用意し、実際にご利用者に食べて頂き、容器の形状・食事形態も含め適正かどうかを検討した。夜間想定避難訓練では消灯しカーテンを閉めた中での訓練を行った。水消火器を使つての消火訓練や発電機の訓練、布担架を使用し2Fより1Fへの移動訓練も実施した。 2 ご利用者の体調変化に気付き必要な処置・訪問看護師・訪問医と連携し適切な処置をする事ができた。 3 ご利用者の生活習慣や考え方を尊重し、寄り添う支援を行う事ができた。 4 今年度も短期間ではあるが転倒、内科的な治療のための入院や特養への移動がありそのため空室期間が長くなり収支に影響を与えてしまった。 5 新規入所者の情報を事前に収集し、介護がスムーズに行える様に努めた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値） 1 外気浴や散歩などにより、天候の許す範囲で1日1回外気に触れて頂く事が達成できた。室内で行える体操を積極的に行い、筋力維持に努めた。 2 サービス提供体制強化加算（Ⅲ）と認知症専門ケア加算（Ⅰ）の維持は達成した。 3 入居率：95.7%であり、目標としていた97%を達成することはできなかった。	
IV	業務の改善・見直し（改善・見直しに取り組んだこと・その結果） 1 感染症対策を行い、制限を設けた中でのご家族面会は一年を通して継続する事ができた 2 地域貢献としての介護相談会は実施する事ができなかったが、今年度は町内会行事も復活し、夏祭り・神輿巡業・どんど焼きなどには参加する事ができた。 3 日勤3名体制から、2.5人体制への移行を徐々に進めていった。また、その中でタイムスケジュールの見直しを行い新しい勤務体制（シフト）を導入した。 4 ご家族との関りが少なくなっている中で、コロナ以前に毎年行っていたようなホームでの大規模な家族会は開催が難しかったが、ご家族との個別の面談を通して対話・意見交換の機会を設けた。普段なかなか聞けないご家族の希望や本音をお聞きする事ができ、ご家族からも好評であった。 5 グループホームも要介護度が上がり、重介護になっている。適切な時期に適切な施設へスムーズに移行できる様に、入居待機者を確保できる様、地域ケアプラザや町内会などへも情報伝達をおこなった。また、自治会の掲示板や近隣の薬局の協力を得て、入居者募集のポスターを張らせて頂いた。	

VI	残された課題・その他の特記事項 1 令和6年度にわかば学園より1名が新規入職となった。今後も実習生受入れを継続していく予定である。 2 コロナ禍で実施する事ができなかった救命講習会をホーム内で実施する。職員全員が必要な応急手当の方法を習得すると共にAED設置施設として地域に認識してもらう様に広報にも力を入れる。 3 ボランティア受入れなど徐々に再開しているが、高齢化により受入れが少なくなっている。今後は新しいボランティア受入れにも力を入れていきたい。また感染症対策を行いながら外出等の機会も増やしていきたい。 4 職員の高齢化に伴い、この一年間は職員の退職が続いた。タイムスケジュール・勤務時間等、柔軟に変更・対応を行い、働きやすい環境作りを継続的にこなっていく。
----	---

1 各ユニットの入居者状況 各階9名定員 合計18名

ユニット	性別	要介護度	年齢	ユニット	性別	要介護度	年齢
1階	女性	5	94	2階	女性	2	82
1階	女性	4	92	2階	女性	3	86
1階	女性	2	89	2階	女性	4	79
1階	女性	3	87	2階	女性	1	86
1階	男性	3	92	2階	女性	1	89
1階	女性	3	89	2階	女性	4	98
1階	女性	2	82	2階	女性	1	89
1階	女性	5	89	2階	男性	2	84
1階	女性	3	102	2階	女性	4	81

1階 平均年齢 90.6歳 要介護度 3.4 最高齢 102歳
2階 平均年齢 86.0歳 要介護度 2.4 最高齢 98歳
ホーム平均 88.3歳 要介護度 2.94

2 入院者数

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	5
計	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	5

3 入居・退居の状況

区分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
入居 男性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入居 女性	0	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	5
入居者合計	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	6
退居 男性	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
退居 女性	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	5
退居者合計	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	1	6

4 行事報告

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	お花見ドライブ・散歩	10	防災避難訓練 担架・自家発電機・水消火器訓練 三育保育園運動会の動画視聴
5	菖蒲湯 母の日のお祝い	11	自治会へ使用済み切手の寄付
6	アジサイ見学	12	クリスマスランチ 亀甲山教会のクリスマス会動画を 視聴 年越しそば
7	七夕かざり	1	元旦 おせち料理 書初め 獅子舞巡業
8	ミルトス夏祭り・かき氷	2	節分（豆まき）
9	敬老の日のお祝い・里山ガーデン	3	雛祭りランチ 夜間想定避難訓練 お花見ドライブ・散歩・里山ガーデン

- ・ 毎月1回・・・歌の会 ボランティア様
- ・ 毎月1回・・・チャプレンのお話
- ・ 年に数回・・・紙芝居 ボランティア様
- ・ 年に数回・・・腹話術 ボランティア様
- ・ 各誕生日・・・おやつにケーキ、食事の際にお赤飯などでお祝い、写真入り色紙をプレゼント

5 運営推進会議

偶数月年6回開催 ※出席者：地域住民1～2名・ケアプラザ職員1名・入居者1名
・利用者家族1名・施設長・ホーム長・各ユニット長

* 令和6年度の運営推進会議は6回開催したが、すべて対面での開催であった。

6 職員研修・訓練

研修名	研修日	参加人数
感染症の予防について（ホーム内） ガウンテクニックの実技訓練（ホーム内）	4月27日	18名
個人情報保護・法令順守（ホーム内）	5月25日	15名
高齢者虐待の防止（横浜市主催オンライン研修）	6月10日	1名
食中毒について（ホーム内）	6月26日	16名
情意考課について	8月9日	17名
感染症予防講習会（横浜市主催）	9月7日	1名
介護現場における防災（ホーム内） 避難訓練・防災食の訓練	10月26日	16名
転倒事故の防止（ホーム内）	11月27日	13名
集団指導講習会（オンライン講習）	12月5日	1名
拘束と虐待防止（ホーム内）	12月22日	19名
腰痛・転倒の防止について（横浜市西労働基準局）	2月13日	1名
職場におけるハラスメントの防止（オンライン研修）	2月23日	1名
BCP（地震を想定した机上訓練）	2月25日	1名
令和6年度介護報酬改定（赤字経営に陥らないために） ZOOM研修	3月5日	1名
夜間想定避難訓練	3月26日	14名
転倒・転落について（ホーム内）	3月26日	18名

- ・全体ミーティング、ユニットミーティング開催 毎月1回
- ・ケアプラン見直し、カンファレンス 半年毎
- ・ホーム内研修の後には、理解度を確認するためのクイズを行った。

事業報告書

令和6（2024）年度



あったかいが
いいね

社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

シャローム三育保育園

シャローム三育保育園 令和6年度事業報告

全体

保育士確保に苦慮し、在園児数を伸ばすことができなかった。感染症の大きな流行も無く予定していた行事を行うことが出来た。

運営

年間の稼働率は91%、平均在園児数76.6/84名。保育人材の確保が出来ず、園児数（特に乳児）を増やす事が出来なかったが、雇用状況により収支のバランスを取ることができた。

資質の向上

園内研修において、職員同士が保育について語り合う時間を増やしたことで、相互理解を深めることができた。また、保育で使える遊びをグループごとに発表する取り組みを1年間行うことで、昔懐かしい遊びなどをみんなで知ることができ、保育での実践に活かすことができた。

地域支援

地域の子育て支援連絡会に定期的に参加し、支援活動への協力と情報の共有に務めた。高齢者施設との訪問など交流を行う事が出来た。

横浜市内でも保育園の定員割れが報告されている中で、瀬谷区では2027年の花博を前に、大規模な区画整理事業が行われており、子育て世帯の転入者も増えている。3年ほど前から入園希望の見学者も増えてきており、一時保育についてのニーズも高い。一時保育は後半から受け入れ人数を増やしたが、目標の43%にとどまった。

園長 村上 渉

目 次

事業報告書	2
【1】現況報告	4
【2】給 食	5
【3】医 務	5
【4】防災管理	6
【5】職員研修	7

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏名
保育園 保育		小幡 悦子
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 新型コロナウイルスが収束し、保護者等の園舎内への入室について制限を全面的に解除したが、園児の受け渡しについては入室場所・方法をクラスごとに現状に合わせて検討し、実施した。現状保育にあわせることで、保護者の混乱を最小限に抑え、保育のスムーズさに繋がる環境となった。	
II	業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
	1 保育中長期計画の「子ども主体の保育」をもとに、現状の課題の見直しを行ったが、現場から「まだ難しい」という言葉が多く聞かれたが、これまでの取り組みや、経験から語り合うことは有意義なものであり、確実に本園の主体性が築きあげられてきていると思われる。 2 「情意考課」で一人一人の意識を高めることができた。しかし、人員体制の面で年度当初の計画とは異なってしまい、リーダーの育成は継続して今後の課題となっている。 3 『風通しの良い園作り、人が育つ、人を育てる風土づくり』が目標であったが、これについても課題が残る年度になった。話し合いの機会を設けることはできたが、個々の意識に結び付けるにはさらにアイディアが必要である。	
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
	1 園児数の確保（目標稼働率 100%）：在籍数 84 名に対し平均 76.6 名。稼働率 91%。 2 一時保育事業（目標 300 名）：利用者数 128 名。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み （改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	1 『保育の中長期「子ども主体の保育」に対する ODCA サイクルの実施』：子ども主体が話し合いのテーマになると、「難しい」、「これは子ども主体なのか」という意見など、根本的な理解の話になりがちだったが、その中でも前向きな意見も増えつつある。常に子どもを中心に話しあう意識は持てるようになってきている。 2 『子どもたちと向き合う時間を最優先し、時間と心のゆとりを持って保育を楽しむためにこれまでやってきた保育業務の見直し、改善を図る』：①おむつのサブスク開始②保護者の園舎内への入室解禁③荷物の準備やシーツ掛け等の保護者協力を取り入れたことで、子どもたちと向き合う時間の確保が出来た。また、職員間の語り合いも増え保育を楽しむ姿が多くなった。 3 『職員の質の向上、人材育成』：①現場への権限委譲により職員が主体的に業務を進め効率的なやり取りが見られた。②主任、リーダーによる現場指導の強化を行ったが、途中リーダーの人数が減る（産休、退職）ことになり、体制を整えて1年を過ごすことができなかった。③職員間のコミュニケーションは、乳児・幼児に分かれ活発に行われていたが、職員全体ではまだコミュニケーションに課題が残る。 4 『保育の見える化の推進』：ホームページの更新をし、園の様子を詳しく発信ができたことで、見学や求職者からの問い合わせが増えた。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 保育の人材育成：風通しの良い、人が育つ、人を育てる風土づくりは依然課題となる。引き続き安定した職場づくりと運営を目指す。	

令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名
保育園 給食		勝谷 広志
I	事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
	1 原材料費や備品などの価格上昇のなかで、適正範囲内に収まるように継続的に努力した。	
II	業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
	1 子どもたちの食環境を保育士と話し合い「食」に興味を持つような食育活動を行なえた。 2 子どもたちの要望を聞くなど子どもたちとの関わりも増え信頼関係を高めることができた。	
III	事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
	1 昼食時残食量 1日あたり目標値 乳児2クラス合計1kg以内：達成率80% 幼児3クラス合計1.5kg以内：達成率94% （前々年度：乳児85%、幼児98% 前年度：乳児88%、幼児95%） ※前年度より数値的に悪くなってしまったが、年度の後半にいくにつれ数値は良くなった。	
IV	業務の改善・強化・新たな試み （改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
	・災害用備蓄では園全体の子どもたちのアレルギーを把握し除去食材が無いように努力を行なった。今後はみんなが安心して食べられる備蓄へ変更していく。 ・毎月の食育担当の保育士を月替わりで決め、様々な保育士と意見交換する事で食育の幅が広がった。また、給食職員全員が参加できた。 ・新しい献立などでは子どもたちの喫食状況を見ながら、調理方法、切り方なども調整し改善をした。 ・給食室の職員が必要と感じた研修に参加でき知識を共有できた。 ・保護者からの意見書ではレシピ以外の声も聴くことができた。	
V	残された課題・その他の特記事項	
	1 食事に興味を持ってもらうために、様々な食育活動を行い成果も感じる事もできた。子どもの成長による生活の変化・嗜好など他部門との連携をとりながら随時情報の更新をする必要を感じた。給食を残してしまう子どもは同じ子どものケースが多いので、「個」に対する最適な環境を整えていくことが課題と感じた。	

【1】現 況 報 告

① 入所児童

(令和7年3月31日付)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定 員	9/6	12/12	15/13	48/39			84/70
現 員	9	12	15	16	16	16	84

② 一時保育事業延利用児童数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延利用児童数	26	18	19	20	16	18	22	31	35	38	28	34	305

③ 行事の状況

実施日	行事名	実施日	行事名
4月1日	入園式	12月24日	もちつき
5月31日	お弁当の日(3歳児以上)	2月3日	節分祭
6月3日	懇談会	2月21日	懇談会(2歳児のみ新年度準備)
6月17～7月24日	個人面談	3月8日	入園説明会
7月12,13日	お泊り保育(5歳児)	3月10,13日	お別れ会
9月13日	秋祭り	3月11日	入園説明会
10月25日	運動会(保護者見学のみ)	3月14日	卒園遠足
11月1日	お弁当の日(1歳児以上)	3月18日	卒園式
12月20日	クリスマスお楽しみ会(保護者の参加無)	3月31日	進級式

《地域交流と支援》

- ・ 幼保小交流：学校探検、球根植え、ジャガイモ堀
- ・ 療育センター巡回訪問：年2回
- ・ セやまる・ふれあい ふくしまつり：12月7日
- ・ セやまる・ふれあい館合同避難訓練：2月21日
- ・ 合同育児講座：1月27日
- ・ 職業体験(中学生)：3名
- ・ 職業体験(高等支援学校学生)：2名
- ・ 実習生：看護大学12名、保育専門生3名
- ・ 交流：認知症デイサービスひまわり6月12日、11月22日(みかん狩り)、1月28日(ZOOM)、3月13日。多機能型拠点こまちハロウィンウィーク10月25日～10月31日。あやめ会(二ツ橋第二ケアプラザ)12月13日。
- ・ 保育園見学者 75組

【2】給 食

① 食育計画 【栄養講話】 対象：3～5歳児

実施日	内 容	備 考（媒体）
7月	旬の野菜について。（夏の味覚）	野菜フリップを活用
7月	命の大切さ（SDGsについて）	魚のつかみ取りを通して
10月	三角食べについて	必要性を伝える用紙を準備
1月	七草粥について	調理前の野菜を見て
2月	節分について	日本の風習を紹介しながら
3月	春の食べ物について	野菜フリップを活用
3月	箸の持ち方	正しい持ち方の用紙を準備

【3】医 務

① 健康診断

実施日	対象人数	実施人数	診断項目	異常の有無
（1回目）5月17日	76人	70人	内科	無
（2回目）10月18日	77人	69人	内科	無
実施人数と対象人数が異なるがその理由を確認し（ <u>病的</u> 、 <u>私的欠席</u> ）、経過を追った。				

② 歯科健診

実施日	対象人数	実施人数
6月27日	76人	66人
11月28日	77人	65人

【4】防 災 管 理

① 消防設備点検

消防設備点検（実施・届出）	6月3日（1回目）実施
	12月2日（2回目）実施
防火対象物点検（実施・届出）	11月13日実施

②防災対策備蓄

備蓄物	数量
医務用品	使い捨てグローブ・バンドエイド・包帯・消毒液・マスク・嘔吐処理セット他
子ども用品	オムツ・おしりふき・着替え・靴・おんぶ紐等
調理器具他	鍋・ガスコンロ・食器・紙ナプキン他
食料品	水・缶詰・白米等
事務用品	筆記用具・ハサミ・ガムテープ等
他	緊急連絡先・ゼッケン・携帯用トイレ・携帯充電器・懐中電灯・軍手・バール・ロープ・ラジオ・ガソリン等

③ 避難及び消火訓練

(実施内容に○印)

実施内容	想 定			訓 練	
実施月日	地震	火災	その他	避難	消火訓練
4月10日	○			○	○
5月8日		○		○	○
6月7日			○(不審者)	○	
6月12日			○(浸水)	○	○
6月28日			○(地域防災拠点での引き渡し)	○	
7月10日		○		○	○
8月14日	○			○	○
9月11日			○(台風)	○	○
			○炊き出し		
10月9日		○		○	○
11月13日			○(竜巻)	○	○
11月25日			○(不審者)	○	
12月11日		○		○	○
1月8日		○		○	○
2月12日	○			○	○
2月21日	○		せやまるふれあい館合同訓練	○	
3月5日			○自然災害による停電	○	○

【5】職 員 研 修

① 園外研修

個 人 の 年 間 の ね ら い ・ 研 修 計 画 及 び 実 施 記 録			
		実施記録(上段:研修名・中段:主催・下段:研修日)	
	個人の年間のねらい(希望研修を含む)	①	②
		③	④
園長 村上渉		不適切保育の未然防止と豊かな保育に実現に向けて	保育の質の向上と個別支援
		瀬谷区子ども家庭支援課	横浜市私立保育園子ども園園長会
		10/22	11/22
		保育士による児童に対する性暴力の防止研修	
		神奈川県福祉子どもみらい局	
		2/17	

小幡 悦子		心に伝わるコミュニケーション	
		フレーベル館	
		6/26	
金子 武人	園全体をしっかりと把握し的確に迅速に行動すること。子どもたち、職員一人ひとりに寄り添い小さな気づきも大事にしていく（コミュニケーション・人材育成）	指導計画の作成	
		横浜市私立保育園こども園園長会	
		12/5	
平井 菜緒	人の意見を尊重する。職員育成（大豆生田先生研修）	途中退職の為未受講	
下村 英里	相手の意見を吸収したり一緒に協調して考えて行くのに加え、具体的な提案もより積極的にしていくことを意識していきたい。連携が必要なタイミングで逃さずより具体的に共有できるように行っていきたい（主体性を大切に保育・異年齢保育・保護者支援）	子育て支援	
		ポピンズ	
		1/10	
吉田 成美	リーダーとし様々な職員の意見を聞き取り、働きやすい環境にする。産休までにクラス内外で相談し合いながら保育が出来るように関わっていく（子ども発達・リーダー）	保護者支援 子育て支援	
		横浜市私立保育園子ども園園長会	
		6/10～10/31e ラーニング	
嶋村 千恵子	協調性を持つ。保育の理解を深める（主体性の取り入れ方）	幼保小	
		瀬谷区	
		年間を通して	
大平 望	前に出すぎず色々な意見を聞き行動する（マネジメント）	みんなであうみんなであそぼう	
		横浜市5区（西・保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷）	
		9/20	
知久 ゆり	しっかりとコミュニケーションを取りながら、何事にも共有し保育していく。積極的に自分の意見などを出しながら取り組む（幼児保育・主体的保育）	子どもたちのミーティングセミナー	
		フレーベル館	
		5/16.6/6	

中村 涼花	幼児対しての声のかけ方や援助の仕方を他の職員の関わり方を見ながら身に付ける。子どもがやりたいことを存分にできるような環境作りを考えて行う（子どもへの声のかけ方・保護者とのコミュニケーション）	子どもたちのミーティングセミナー	
		フレーベル館	
		5/16・6/6	
杉本 育子	与えられた仕事を最後までやり遂げ、誰かのためになる（幼児教育）	食育・アレルギー対応（キャリアアップ）	保護者支援 子育て支援（キャリアアップ）
		横浜市私立保育園子ども園園長会	神奈川県福祉こども未来局
		6/10～10/31 （内 15 時間 8 分の e ラーニング）	9/4・9/12
中野 友絵	乳児の生活に慣れ、子どもたちが安心できるような保育を行う事が出来るよう配慮していく（乳児保育）	途中退職の為未受講	
瀬谷 留美	他クラス担任とも情報共有や連携をとり子どもたちが主体的に取り組めるようにする（製作・描画活動）	幼児教育実践研究	
		横浜市こども青少年局	
		5/13. 7/16. 8/21. 10/22. 12/10	
真中 香乃美	園の理念や方針を十分に理解する。常に広い視野を持ち、疑問や困難を解決出来る様努める	みんなであうたおうみんなであそぼう	
		横浜市 5 区（西・保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷）	
		9/20	
宮原 茜	フリーとしてクラスに入る短い時間の中でも子どもたちと積極的に関わり、どのクラスに入っても信頼関係が築けているようにしたい（子どものメンタルケア・心理）	子どもの人権に配慮した保育研修	
		横浜市	
		12/13	
佐藤 百合子	保育の流れを把握し、担任がスムーズにクラス運営出来る様サポートする（手遊びやリズムあそび等）	みんなであうたおうみんなであそぼう	
		横浜市 5 区（西・保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷）	
		9/20	

宮原 恵子	仕事で分からない事を教えたり、教わったりする中で人とのコミュニケーションをより深め 気持ちよく仕事出来るように心掛ける（乳児保育・危機管理・保育知識）	救急講習会	
		瀬谷消防署総務・予防課	
		1/15	
加藤 京子	様々な立場の人の気持ちを想像した広い視野考えをもつ（最近の保護者の実生活と子育ての課題）	子どもたちの一瞬に何をみるか『思い込みから脱却』保育のまなざし	
		しろやぎ保育書房	
		1/21	
横森 房枝	責任をもった働き方。役割分担の自覚	子どもの性を考える わたしのからだはわたしのもの	
		横浜市こども青少年局	
		10/24	
松浦 佳奈子	乳児保育の知識を深める。コミュニケーションを大切に協調性をもって取り組む（乳児保育・事故防止）	乳児保育（キャリアアップ）	
		横浜市私立保育園こども園園長会	
		6/10～10/31e ラーニング	
松本 美奈子	日々の保育の中で気が付いたこと 感じた事をきちんと伝える。声の大きさ、言葉遣いに気をつける（子どもと自然）	子どもの主体的な活動と 共にある計画を考える	
		横浜市私立保育園こども園園長会	
		12/18	
森山 裕美子	保育園の流れを覚え、先回り行動が出来るようにする（リトミック）	子どもたちの一瞬に何をみるか『思い込みから脱却』保育のまなざし	
		しろやぎ保育書房	
		1/21	
蛸子 那美恵	どの職員・園児とも積極的にコミュニケーションをとって信頼関係を築き仕事に関する知識・技術の向上に努める（主体性の保育）	子どもの主体的な活動と 共にある計画を考える	
		横浜市私立保育園こども園園長会	
		12/17	

宮本 博子	いろいろな事に積極性を心掛けて保育を行っていきたい(保育知識：子ども主体の保育)	子どもたちの一瞬に何を見るか	
		しろやぎ保育書房	
		3/13	
勝谷 広志	他部署との連携を強化(調理・食育・衛生)	マネジメント(キャリアアップ)	給食施設栄養管理研修会
		ポピンズ	瀬谷区福祉保健センター
		12/23 他eラーニング	3/4
熊倉 和可子	給食と保育側との話し合いや情報の共有(幼児食アドバイザー・食育)	給食施設栄養管理研修	給食施設栄養管理研修会
		横浜市瀬谷区福祉保健センター	瀬谷区福祉保健センター
		10/7	2/4
田仲 あゆむ	新しいメンバーも増えたので協力し合い、ミスなく声を掛け合って作業する(専門調理師・アレルギー対応)	給食施設栄養管理研修	
		横浜市瀬谷区福祉保健センター	
		10/7	
澤田 浩子	自分の仕事を時間内に確実に終わるよう努力していく	食物アレルギー緊急時対応研修	
		公益社団法人かながわ福祉サービス振興会	
		11/19	
岩鶴 晴美	業務の流れを習得し、チームの一員とちえ行動できるようになる(衛生・調理。調理師・食育インストラクター取得見込み)	給食施設栄養管理研修	
		横浜市瀬谷区福祉保健センター	
		11/15	
大原 仁子	新入職員とのコミュニケーションを大切に、場面に応じた方法で伝えられることを伝え必要な情報を共有する(社会福祉法人会計基準対応：応用編)	社会福祉法人会計基準対応 応用編	
		ウイリング	
		11/14・15	
岡田 千歳	多職種協働で昨年度よりも工夫した研修や子どもたちへのレクチャーをしてみたい(母子保育・感染症・保護者支援・食とアレルギー)	子どもの人権に配慮した保育研修	
		横浜市	
		9/19	

西村 菜緒	初めての保育で分からないことだらけなのですが、何事にも積極的にいき、分からないことがあったらすぐ聞いたりできるようにしたい。	主体性を支える保育 4 つの誤解	
		しろやぎ保育書房	
		2/25	
アン アーラ ン	園児の名前と顔を覚え 先生たちの名前と顔を覚える事。さらに 仕事の手順を覚えて間違いを減らし、さらに完璧にすること。(配慮児)	主体性を支える保育 4 つの誤解	
		しろやぎ保育書房	
		3/21	
宮森 里奈	子どもたちと沢山コミュニケーションを取り 信頼関係を築いていく (リトミック)	よこはま保育・教育宣言 研修	
		横浜市	
		1/10	
千葉 玲央	職員 保護者 子どもたちと 関わり関係を築く	途中休職の為未受講	

② 園内研修

園内研修 年間のねらい【人が育つ 人を育てる風土づくり】

実施年月日	内容 (担当職員)
4月26日	・保育実践 ・ハザードマップの見直し (リーダー) ・歯磨き仕上げ (看護師)
5月31日	・保育実践 ・除去食対応 (栄養士) ・嘔吐処理 (リーダー) ・誤嚥 (園長) ・発熱時 (園長)
6月28日	・クラスの様子共有 (リーダー) ・夏の遊びについて グループディスカッション (リーダー) ・保育実践
7月19日	・クラスの様子共有 (リーダー) ・防災 (防災係) ・保育実践
8月30日	・クラスの様子共有 (リーダー) ・保育実践 ・乳児、幼児保育 グループディスカッション (主任保育士)
9月27日	・クラスの様子共有 (リーダー) ・保育実践 ・自己評価 (主任保育士) ・人権擁護 (園長)

10月25日	・クラスの様子共有（リーダー） ・保育実践 ・ヒヤリハット フィードバック グループディスカッション（主任保育士）
11月29日	・クラスの様子共有（リーダー） ・保育実践 ・遊具からの転落、児童の衝突時の対応（看護師） ・防災（防災係）
12月20日	・クラスの様子共有（リーダー） ・保育実践 ・主体性保育 グループディスカッション（主任保育士）
1月16日～ 24日	・心肺蘇生（看護師）
1月31日	・保育実践 ・クラスの様子共有（リーダー） ・人事考課について（主任、主任保育士）
1月7～2月6 日	・嘔吐処理（看護師）
2月28日	・保育実践 ・クラスの様子共有（リーダー） ・自己評価 グループディスカッション（主任保育士）
3月9日	新年度準備日 ・法人理念 保育園の役割 個人情報 苦情 要望解決 人権擁護（園長） ・主体性（主任保育士） ・防災（防災係）
3月28日	・保育実践 ・誤飲等（看護師） ・新年度に向け（各クラス）

他：前期・後期で事故・ヒヤリハットのフィードバックを行う

事業報告書

令和6（2024）年度



社会福祉法人 アドベンチスト福祉会

沖縄事業

ベーテルの夢

相談支援事業所ベーテル

ベーテルの夢Ⅱ

令和6（2024）年度 沖縄事業 事業報告

1. 沖縄事業の取り組みについて

沖縄事業の中心として行われている2つの放課後等デイサービスは、子どもを預かるという点では保育園と似ているが、対象となる子どもたちへの関わり方（接し方）が違ってくる。保育園のような年齢によるクラス分けはなく、また障害を持つ子どもたちを対象としているため、一人ひとりの障がいや発達状況によって、指導方法が異なってくる。そのため、年齢ではなく一人ひとりに応じて対応方法（関わり方）を検討する必要があり、また規模も小さく（10名程度）、職員数も限られているため、個々の子どもたちの特徴に応じた幅広いスキルと職員間の連携も求められる。

今年度は、計画で掲げた、福祉の原点と与えられた使命、福祉サービスの意味と自らの役割を日々のミーティングや法人主催の研修などで各職員が理解し、事業継続していくため3つの課題（収支の安定化、リスク管理、福祉の本質理解）に取り組んできた。その結果、保護者からの信頼と、関係機関との連携を深め、多くの特徴のあるプログラムを提供し実践してきた（各部門事業報告参照）。

また、相談支援事業は現在も一人事業所となっていて、目標数値には届いていないが、他事業所との連携や情報の取得を得ながら、取り組んできた。もう少し時間がかかると思われるが、引き続き相談支援事業の人材確保も含め、充実した事業を行うことができるよう努力していく。

2. 課題について

器を満たす（定員を満たす）ことはでき、沖縄事業として収支がプラスとなったが、収支のバランスをもう少し工夫する必要がある。また、沖縄事業の発展や継続をしていく上で、既存サービスを充実させながら、人材の確保・育成が必要である。学生等にアルバイト等で広くこのサービスを体験させるのと同時に、特に若手（次の世代）人材確保と育成をしていく必要（中期計画）がある。そして既存職員に対してはより良いサービスの充実を行っていくため、研修に参加等を通して、スキルアップも同時に行っていくたい。

年間を通じて、2つの事業が子どもたちに対し真摯に向き合い、充実したプログラムを提供しながら、保護者や地域住民の理解を得、日々のミーティングの中での学びや祈りのうちに、大きな事故もなく運営できたことを感謝したい。引き続き基本的スタイルを維持・発展させながら祈りつつ取り組んでいきたい。

沖縄事業 所長 坂本 晋一

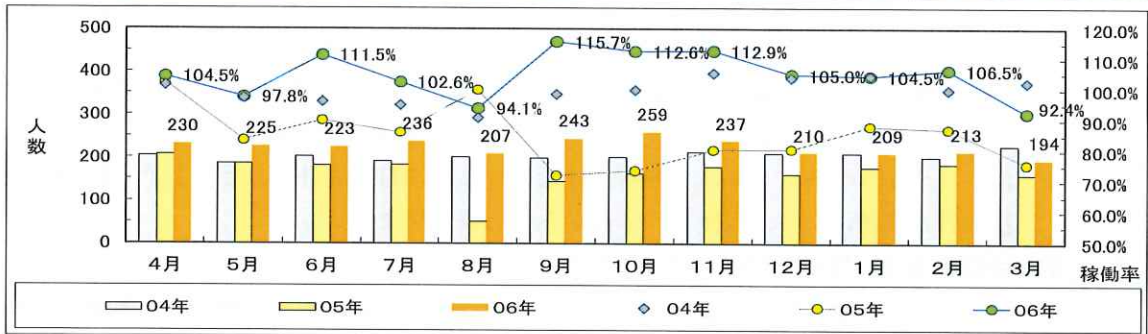
令和6年度事業報告 部門名		報告者：氏 名	
ベーテルの夢 相談支援事業所ベーテル		坂元 十七重	
I	事業概況・実績報告（今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）		
	1 利用児人数（登録者数:21名、年間延べ実績数:2,686名） 2 利用児平均稼働率 104.9%（前年度比 137%） 3 キリストの精神に倣い、児童とその家族に寄り添い、地域社会に貢献する福祉サービスとしての役割を理解、実践し、対象者の価値ある人生に意味づけを行った運営をした。		
II	業務目標の達成に関する報告（達成できたこと・できなかったこと）		
	【ベーテルの夢】 1 「子どもの最善の利益」を保障し、安心・安全の居場所の提供 ・個別に寄り添い、虐待児への見守りを徹底し関係機関（児童相談所、児童家庭課、学校、医療機関）との連携を強めた。 ・定期的な避難訓練（火災・地震、災害時の事業継続）の実施とシュミレーションした。 2 「総合支援型」における多領域の活動を実施 ・個々の特性に合わせた合理的配慮の下、子どもの「生活・遊び・集団（仲間）」から組み立てた活動（動物介在療法（馬、犬、小動物）、ベーテルファームによる農作業、道具（工具）の正しい使い方を知らせた「ものづくり」を取り入れることで、共生社会において生きる力を具体的に体験として身につけられるようにした。 3 多機能型事業所の発展的な運営 ・児童発達支援の対象児を可能な限り受け入れ、就学後も放課後デイサービスの利用が継続できるようにした。		
	【相談支援事業所ベーテル】 1 専門的な人材の確保及び養成 ・相談支援専門員の更新研修（5年更新）を受けることで、適切に事業を運営した。 2 地域での相談支援協働体制の確保 ・一人事業所の抱える脆弱性の対策として、相談システムのソフトの導入や、市町村及び多様な事業所と連携し、必要な情報等を得ることで、適切な計画相談サービスを提供することができた。相談支援協働体制に関しては、整備されていない。		
III	事業数値目標の達成に関する報告（達成率・達成数値）		

	【ベータールの夢】 1 児童発達支援・放課後等デイサービス（平均利用者数 10 人/日）を満たし目標達成。 ・情緒障害、精神障害を抱える利用者の気持ちの不安定さによる欠席を懸念し、利用予定数を最大上限 15 名/日を予定することで急な欠席をカバーした。 2 避難訓練（火災・災害）の実施（2 回/年） ・8/8（木）地震訓練、2/11（火）火災訓練、その他机上シミュレーション 【相談支援事業所ベータール】 1 相談支援専門員 1 名の請求上限（35 件）：未達成（平均：10 件/月程度） 2 報酬改定に伴い、相談支援体制の確保と算定可能な加算を確保：未達成 ・相談支援協働体制に関しては、現在、行政部会へ要望、具申している。
IV	業務の改善・強化・新たな試み（改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果） 1 適切な収益を上げるために具体的な支出の見直しを行った。（保育材料などは必要なものを絞り、コストの削減に取り組んだ） 2 相談支援事業所からの積極的な新規利用者契約を行い、収支のバランスを図った。 3 職員の聖書の学びを継続し理念を浸透させ、具現化する働きかけを行った。 事業所内研修（虐待等）、放課後連研修（事例発表等）を積極的に行い、職員の自己研鑽に努めた。法定研修にも参加し加算や配置につなげた。 4 動物介在療法（馬・犬）等とは事業所との連携を図り継続強化、新たな取り組みにおいて地域資源（浦添市有前田公園（仮称）整備予定地）ふれあいガーデンの一角に畑（ベータールファーム）を整備し作物を育て収穫した。収穫した作物は自治会や関係者へ配布し、喜ばれた。
V	残された課題・その他の特記事項 1 引き続き、収益と支出のバランスを整え安定した運営に努める。 2 小学校高学年から高等部対象の利用児の環境を整え、不登校児や高学年の活動の幅を広げることを目的とした居場所を確保する。よって当法人の地域社会への融合、事業の発展と拡大及び連携を強化する必要がある。 3 相談支援事業所ベータールに関しては利用者のニーズに応じ、事業数値目標の達成に向けた人員を育成、確保する必要がある。

令和6年度事業報告 部門名	報告者：氏名
ベーターの夢Ⅱ	福地 泉
事業概況・実績報告 （今年度の事業を取り巻く環境・結果・状況 グラフ・数表など別表）	
1 放課後等デイサービス 利用児登録数 18 名・利用延べ人数 2,600 人・平均稼働率 102% 保育所等訪問支援事業 利用時登録数 12 名・利用延べ件数 254 件・目標達成 20 件/月 2 保育所等訪問支援事業を通して保護者の信頼のみならず、学校からの深い繋がり信頼を得た。また、訪問件数目標を達成することにより、事業所の総収益増となった。 3 自然活動をはじめ、多くの実体験を通して、児童が喜びや自信を持ち自尊感情を育んだ（保護者・学校より評価）。こうした実践を5領域（健康・生活/運動・感覚/認知・行動/言語・コミュニケーション/人間関係・社会性）に具体的に言語化したことで、事業所の支援内容が明確になり、保護者や学校からの信頼が深まった。	
Ⅱ 業務目標の達成に関する報告 （達成できたこと・できなかったこと）	
1 戸外や文化活動、専門的支援（歯科・リトミック・運動）並びに様々な実体験により、自分らしく生きいきと活動し、自尊感情が育まれたことで、他者との繋がりが育まれた。 2 支援の根拠である聖書のみ言葉を、毎月楽しく覚える仕組みづくりができた。 3 訪問事業を行うことで、保護者と学校との風通しが良くなり、保護者の学校への信頼や児童を取り巻く大人が同じ目線で児童の成長を育むことができた。	
Ⅲ 事業数値目標の達成に関する報告 （達成率・達成数値）	
1 放課後等デイサービス 稼働率 102% 保育所等訪問支援 20 件/月 2 職員会議 2 回以上/月 3 理念の学び（交わり） 法人研修（チャプレン）等を通して、理解を深めた。 4 個別支援計画 年間スケジュール作成し毎週計画的に行うことができた。 5 訪問支援の内容共有 保護者へ丁寧な情報共有を行い、安心を届けた。	
Ⅳ 業務の改善・強化・新たな試み （改善・強化・新たな試みに取り組んだこと・その結果）	
1 保育所等訪問事業は、更なる需要があるため、マンパワーの増員を検討する。 2 保護者・学校との相談・連携件数は昨年度を上回り、信頼関係がより深まった。 3 丁寧な不登校支援を通して学校や行政との信頼関係が強化され、学校長や教育委員会担当者からの相談依頼などを受け、地域機関との絆が深まった。 4 口腔ケアの実践継続を通して、子どもの歯に対する意識の向上並びに保護者の意識の向上を支援することができた（歯医者への通院開始や日頃の清潔意識向上）。 5 週に3回以上食育環境を提供し、作る楽しさを通して、児童の自信や達成感を培い、児童の安心感を培い、食の幅（偏食へのチャレンジ）が広がった。 6 ベーターの夢Ⅱの畑の作物（玉ねぎ、ブロッコリー・ジャガイモ・他 10 種類）作りを通して、自然環境と人との相互作用により免疫力を高めて健康的な体づくりをした。 7 性教育を通して他者との距離感や他者と自分を大切にすることを育んだ。次年度は保護者の性教育勉強会を通して、保護者交流会を行う。	
Ⅴ 残された課題・その他の特記事項	
1 職員一人一人が発達支援への更なる理解を深めるための学びと実践の言語化に努める。 2 保育所等訪問事業のマンパワー増員・事業所を担っていく若手の男性職員の雇用確保。 3 仕事の可視化（マニュアルの継続的見直し作成）によりチームワークと効率化を目指す。	

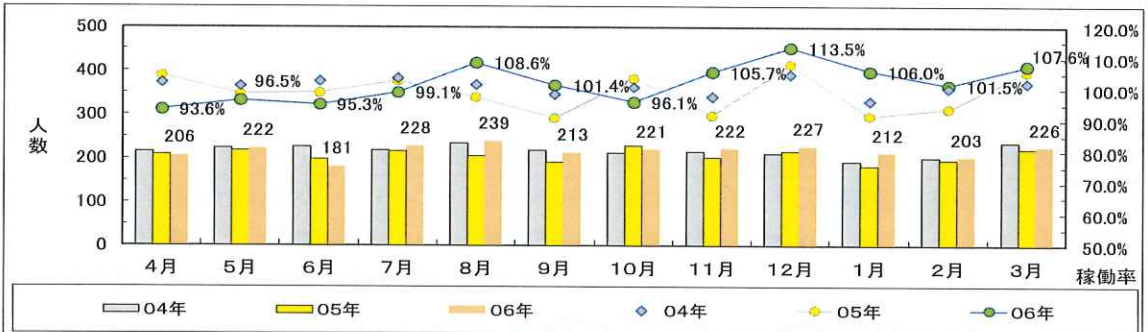
ベーテルの夢 利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
O6年	定数	220	230	200	230	220	210	230	210	200	200	200	210	2,560
O4年	人数	203	185	202	190	200	197	200	211	208	209	200	225	2,430
O5年	人数	205	184	180	181	50	144	162	177	161	176	183	159	1,962
O6年	人数	230	225	223	236	207	243	259	237	210	209	213	194	2,686
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
O4年	稼働率	101.5%	97.4%	96.2%	95.0%	90.9%	98.5%	100.0%	105.5%	104.0%	104.5%	100.0%	102.3%	99.6%
O5年	稼働率	102.5%	83.6%	90.0%	86.2%	100.0%	72.0%	73.6%	80.5%	80.5%	88.0%	87.1%	75.7%	83.8%
O6年	稼働率	104.5%	97.8%	111.5%	102.6%	94.1%	115.7%	112.6%	112.9%	105.0%	104.5%	106.5%	92.4%	104.9%



ベーテルの夢Ⅱ 利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
O6年	定数	220	230	190	230	220	210	230	210	200	200	200	210	2,550
O4年	人数	215	223	226	218	234	217	212	215	210	193	201	235	2,599
O5年	人数	209	217	198	216	205	191	228	202	216	183	197	222	2,484
O6年	人数	206	222	181	228	239	213	221	222	227	212	203	226	2,600
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
O4年	稼働率	102.4%	101.4%	102.7%	103.8%	101.7%	98.6%	101.0%	97.7%	105.0%	96.5%	100.5%	102.2%	101.1%
O5年	稼働率	104.5%	98.6%	99.0%	102.9%	97.6%	91.0%	103.6%	91.8%	108.0%	91.5%	93.8%	105.7%	99.0%
O6年	稼働率	93.6%	96.5%	95.3%	99.1%	108.6%	101.4%	96.1%	105.7%	113.5%	106.0%	101.5%	107.6%	102.0%



沖縄事業 放課後等デイサービス 利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
O6年	定数	440	460	390	460	440	420	460	420	400	400	400	420	5,110
O4年	人数	418	408	428	408	434	414	412	426	418	402	401	460	5,029
O5年	人数	414	401	378	397	255	335	390	379	377	359	380	381	4,446
O6年	人数	436	447	404	464	446	456	480	459	437	421	416	420	5,286
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
O4年	稼働率	102.0%	99.5%	99.5%	99.5%	96.4%	98.6%	100.5%	101.4%	104.5%	100.5%	100.3%	102.2%	100.38%
O5年	稼働率	103.5%	91.1%	94.5%	94.5%	98.1%	81.7%	88.6%	86.1%	94.3%	89.8%	90.5%	90.7%	91.67%
O6年	稼働率	99.1%	97.2%	103.6%	100.9%	101.4%	108.6%	104.3%	109.3%	109.3%	105.3%	104.0%	100.0%	103.44%

